

私義(家屬)何某(仕入)爲致度依テ該鑑札御下附被下度此段相願候也

年 月 日

郡町番地 何 某
右(家屬) 何 某
年齡

右營業人

何 某印

右(家屬) 何 某印

長野縣知事宛

備考

一雇人ヲシテ(仕入)ヲナサシムルモノハ爲致度ノ下「尤私家ニ同居常住ヲナス雇人ニ相違無之」ノ十八字ヲ加フヘシ

第六號書式

煙草(仕入)鑑札還納届

郡町番地

煙草(製造)營業人
小賣

番號	何	某
一煙草仕入鑑札	一枚	自己携帶ノ分
番號	何	某
一煙草仕入鑑札	一枚	家屬何某携帶ノ分
番號	何	某
一煙草出賣鑑札	一枚	雇人何某携帶ノ分
右都合有之本日限自己又ハ家屬何某雇人何某(仕入)相廢候ニ付該鑑札還納此段及御届候也	年 月 日	右 何 某印
第七號書式	長野縣知事宛	
煙草何々鑑札(書換)願	郡町番地 何 某	
第九號	郡町番地 何 某	
一煙草何々鑑札	郡町番地 何 某	
右ハ豫テ御渡相成候處年月日何々(事放アルモノハ)ニテ(遺失毀損又ハ代替轉)候ニ付(新鑑札)御渡被下度此段相願候也	年 月 日	右 何 某

(雇人家屬ニ於テ仕入出資
鑑札ヲ遺失毀損セシトキ)

(家屬
雇人)

何

年

某印
齡

長野縣知事宛

第八號書式

送狀

番號

一何々葉煙草 何貫目代價金何圓何錢

但一個何貫目ツ、何個(又ハ但何個ノ内一個何貫目一個何貫目)

番號

一卷煙草 何貫目定價金何圓何錢

但何十日包 何個

右相送り候也

年月日

縣郡町番地何々營業人

送主 何

某印

縣郡町番地何々營業人

何 某殿

第九號書式

煙草製造
仲買
小賣營業廢業届

郡町番地

煙草製造
仲買
小賣營業人

何 某

第 號

一煙草製造
仲買
小賣營業免許鑑札 一枚

一煙草仕入鑑札 何枚内一枚自己携帶ノ分
一枚家屬何某携帶ノ分

一煙草出賣鑑札 何枚内一枚自己携帶ノ分
一枚家屬何某携帶ノ分

右ハ煙草製造
仲買
小賣營業仕來リ候處本日限り廢業仕候依テ鑑札還納此段及御届候也

年月日

右何 某印

長野縣知事宛

(表紙)

(第十號樣式)

自明治何年何月

葉煙草 買入帳

郡町村番地
煙草製造人
何 某

買入ノ部

買入番號	買入月日	種別	區分	分量	目	藏		出		買入代價	仲買人姓名
						何貫	何日	何貫	何日		
一號	何月何日	生	坂	斤	何貫目	何貫	何日	何貫	何日	何圓	郡町村仲買人 何 某
二號	何月何日	大	鹿	斤	何貫目	何貫	何日	何貫	何日	何圓	郡町村仲買人 何 某
三號	何月何日	同	慰	斤	何貫目	何貫	何日	何貫	何日	何圓	郡町村仲買人 何 某
計					何貫目	何貫	何日	何貫	何日	何圓	
越高					何貫目	何貫	何日	何貫	何日	何圓	

(計通) 計 (月何) 小

元葉十二貫目	何月何日	第 一 號	同 日	藏 出 番 號	藏 出 日 號	葉 組			買入 番號	量目
						計	第一號 六貫目	第二號 六貫目		
元葉何十何貫目 內何十何貫目 此元葉何十何貫目 越高何十何貫目	何月何日	製 造 高	何月何日	何月何日	何月何日	葉 葉			量目	月 日
						計	三貫目 何月何日	三貫目 何月何日		
元葉何十何貫目	何月何日	製 造 高	何月何日	何月何日	何月何日	上 刻			元葉 量目	月 日
						計	四貫目 二貫目 何月何日	四貫目 二貫目 何月何日		

(表紙)

第十一號樣式

自明治何年何月

煙 草 販 製 賣 造 帳

郡町村番地
煙草製造人
何 某

夕ノ部 煙草稅

製造ノ部										
製造月日	藏出番號	量目	區包	個數	一個定價	印紙貼用高	何月何日	何月何日	何月何日	計
	一號ノ内	三貫目	區包	三十個	十五錢		一號ノ内	一號ノ内	一號ノ内	
	二號ノ内	二貫目	區包	三十個	十五錢		一號ノ内	一號ノ内	一號ノ内	
	三號ノ内	一貫目	區包	三十個	十五錢		一號ノ内	一號ノ内	一號ノ内	
	六貫目	六貫目								

賣渡ノ部

賣渡ノ部										
賣渡月日	製造月日	量目	區包	個數	定價	代價	賣渡先住所	全上氏名	何月何日	計
	三貫目	區包	三十個	四圓五	三圓六	郡町番地	仲買人	何買人	何月何日	
	何貫目									
	何圓									
	何圓									
	小賣人									
	何買人									

諸帳簿記載例

葉煙草 買入帳 (第十號様式)

- 一 買入番號及藏出番號ハ每號起號スルモノトス
 - 二 毎月未合計ヲ付シニケ月目ヨリ累計ヲ付シ尙翌月ヘノ越高ヲ記載スヘシ
 - 三 越高ハ總テ合計通計ニ算入セス
 - 四 買入ノ部越高ハ藏出未済高ヲ藏出ノ部越高ハ製造未済高ノ元葉量目ヲ記載ス
 - 五 自己ノ耕作煙草ヲ製造スルモノト雖モ買入ノ部氏名ノ欄ニ自作ト記シ買入代價ハ時價ヲ記入スヘシ
 - 六 異葉ヲ買入レタルキハ其現量目ヲ記入スヘシ
 - 七 藏出ノ部異葉及刻上量目ハ日々ノ仕揚ケ請取高ヲ逐次記入スルモノトス
 - 八 元葉ノ減量アルキ又ハ切尻刻屑ヲ元葉ニ加入スルキハ藏出ノ際元葉高ノ左側ノ外書ニ記載スヘシ
 - 九 質入抵當トナシ又ハ水火盜難ニ罹リタル煙草ニシテ其藏出未済ノモノハ買入帳欄外ニ藏出済ノモノハ藏出帳欄外ニ其量目事由ヲ記入シ置クヘシ其尻シ受ケタルキハ事由ヲ記載スヘシ
 - 十 藏出高ハ一番號十五貫目以内ヲ以テ程度トナスヘシ
- 煙草 製造帳 (第十一號様式)
- 一 刻及葉卷紙卷煙草ヲ製造スルキハ口別シテ記載スヘシ
 - 二 製造ノ部量目ハ其日ノ製造高ヲ逐次記入スヘシ
 - 三 印紙貼用高ハ製造高ニ對スル總額ヲ記入ス

- 四 粉煙草又ハ切尻刻屑ノミヲ以テ製造シタルモノハ藏出番號欄内ニ其名稱ヲ掲記スヘシ
 - 五 加貼改装ノ印紙ハ製造部欄外ニ其事由壹個定價欄ニ加貼ハ一ケノ増差改装ハ一ケノ定價ヲ記入シ藏出番號欄ニ斜線ヲ畫スヘシ
 - 六 公賣等ニ依リ買受ケタル煙草ヲ改装シ又ハ新ニ包裹シタルモノハ藏出番號ノ欄ニ其事由ヲ掲クヘシ
 - 七 質入抵當トナシタル製造煙草ハ製造ノ部欄外ニ其事由ヲ記入シ水火盜難ニ罹リタルモノハ賣渡ノ部ニ記載シ氏名ノ欄ニ其事由ヲ掲クヘシ
 - 八 卷煙草ハ量目ノ欄ニ其本數ヲ記載スヘシ
 - 九 此帳簿ニハ葉煙草 買入帳第二項第三項ヲ適用ス但賣渡ノ部ハ越高ヲ付スルニ及ハス
- 煙草印紙買入帳 (第十二號様式)
- 一 交換汚染亡失毀損ニ係ルモノハ各種ニ類別シテ其事由ヲ記入スヘシ
- 葉煙草 買入帳 (第十四號様式)
- 一 買入番號ハ毎年起號スルモノトス
 - 二 自己ノ耕作煙草ト雖モ之ヲ販賣スルモノハ買入ノ部氏名ノ欄ニ自作ト記シ買入代價ハ時價ヲ記入スヘシ
 - 三 水火盜難ニ係ルモノハ賣渡ノ部ニ記入シ氏名ノ欄ニ其事由ヲ記入シ質入抵當トナシタルモノハ買入ノ部欄外ニ其事由ヲ掲記シ置クヘシ
 - 四 減量ハ賣渡ノ際量目ノ左側ニ朱書シ置キ合計通計ニ外書スヘシ
 - 五 此帳簿ハ葉煙草 買入帳第二項第三項ヲ適用ス

製造煙草 販賣入帳 (第十五號樣式)

- 一 刻葉卷紙卷煙草ハ口別シテ記載スヘシ
 - 二 此帳簿ハ葉煙草 販賣入帳第二項第三項葉煙草 販賣入帳第三項煙草 製造帳第八項ヲ適用ス但賣渡ノ部ハ越高ヲ付スルニ及ハス
- 煙草買入帳 (第十六號樣式)
- 一 此帳簿ハ製造煙草 販賣入帳第二項ニ依リ記入スヘシ

○長野縣訓令第百三十號

間 稅 分 署

煙草稅則取扱手續別紙ノ通相定メ明治二十一年五月訓令第百七十號煙草稅則取扱心得書ヲ廢ス

明治二十四年十月十五日

長野縣知事 淺田 徳則

煙草稅則取扱手續

- 第一條 煙草製造營業願ヲ受ケタルキハ本人資産ノ厚薄素行ノ正否及製造場ニ係ル建物坪數器械員數雇人員ヲ精査シ證約狀ヲ徴シタル後鑑札ヲ下付スヘシ
- 第二條 煙草製造人ノ煙草製造場ト賣渡場及仲買人小賣人ノ買入場ト賣捌場ノ區域ヲ異ニシテ營業スルモノハ其場所一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受ケシムヘシ
- 第三條 證約金額ハ左ノ標準ニ據リ指定スヘシ
雇人三人器械二個坪數五坪以内ヲ金五十圓トス
以上雇人一人器械一個坪數五坪迄ヲ増ス毎ニ各金二圓ツヽヲ加フ

第四條 施行細則第二條二項ニヨリ前條ノ標準額ヲ増減セントスルキハ其事由ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ

第五條 證約狀ニ相當ノ保證人ヲ得ス抵當ヲ差出サシムル場合ニ於テハ其物件ノ價格ハ左ノ標準ニ據ル

- 一 公債證書ハ明治二十三年勅令第四號第三條ニ依ル
- 一 銀行會社ノ株券預リ券ハ價格ノ十分ノ八
- 一 土地ハ價格ノ十分ノ六

前項ノ價格ハ各地現賣買ノ價格ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第六條 前條ノ場合ニ於テ證約狀ハ左ノ如ク記載セシムヘシ

- 一 金額ノ次ニ此抵當何々ト記載スルヲ但列記シ難キキハ別ニ仕譯書ヲ添付シ別紙仕譯書ノ通ト記載スヘシ
- 一 「保證人ト共ニ」ノ六字ヲ刪ルヲ

第七條 「連署ノ保證人」以下ヲ「前項抵當物件賣却ノ上徵收相成聊異議無之事」ト記載スヘシ

第八條 煙草營業者心得書第二條及他ノ事故ニヨリ證約狀ヲ更改スルキハ左ノ一款ヲ記載セシムヘシ

四款此證約狀更改以前ニ係ル證約及保證ノ義務ニ就テモ其責任ヲ負擔可致事

第九條 稅則第三條三項ノ場合ニ於テハ證約金徵收額ヲ豫定シ意見ヲ具申スヘシ

前項上納簿ノモノハ直ニ本署ニ報告シ若シ日限内ニ上納セサルモノアルトキハ裁判所ニ出訴ノ

手續ヲ取調指揮ヲ請フヘシ
 第十條 證約狀ハ抵當物件ヲ除クノ外總テ間稅分署長ニ於テ保管スヘシ
 第十一條 第三條ニヨリ證約金額ヲ指定シタルキハ其時ニ申報シ尙證約金臺帳ヲ調製シテ之ヲ登錄シ異動ノ時ニ更訂スヘシ
 第十二條 諸鑑札記載方其他ノ様式ハ第一號ヨリ第三號ニ據ル
 第一號

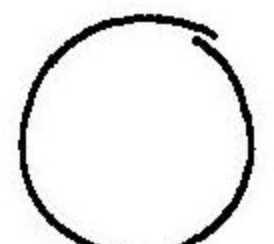
證約金臺帳				住所		業名氏名	
證約狀日附	證約金額	徵收金額	徵收命令月日	徵收濟月日			
證約狀							
更改事故							

第二號

製造場所	雇人員數
建物坪數	器械員數

主稅局長印
押切

表 面 略 圖



大 日 本 帝 國 政 府

第何號

長野縣 信濃國何郡町番地

煙草 (製造) (仲買) (小賣) 營業免許鑑札

長野縣 信濃國何郡町番地

何ノ誰

營業場

裏 面 略 圖

印	間
押	稅
切	分
署	

明治何年何月何日

長野縣

第三號

木製寸法 縦 二寸三分 横 一寸七分

表

番 號	煙 草 出 入 鑑 札
(製造) 營業人住所氏名	(仲買) 營業人住所氏名
年 齡	年 齡

裏

明治何年何月何日

長野縣

備考 家族雇人ナルキハ營業人住所氏名ノ左傍左ノ如ク記載スヘシ

(家族) 住所 氏名

(雇人) 年 齡

○訓示第一號

檢稅員派出所

明治二十一年七月大藏省告示第八十九號煙草印紙交換手續ハ天災其他抗拒スヘカラサル事變ニ罹リ毀損汚染シタル煙草ノ包裹貼用印紙ニ對シ適用スルモノニシテ其煙草ノ既ニ水入泥染等トナリ之レカ手入ヲ爲スモ改装シテ販賣スルコトヲ得サルモノ及ヒ包裹又ハ印紙ノミ毀損汚染スルモ全ク不注意ノ致ス所ニシテ前陳ノ災變ニ罹ルニ非ルモノニ向テハ適用スヘカラサル義ニ候條自今右ノ旨趣ニヨリ取扱フヘシ

明治二十二年二月一日

長野縣收稅長 内阪 惇徳

○クノ部

菓子税

○縣令第十號

明治十八年六月甲第五十九號布達菓子營業人心得書別冊ノ通改正ス但菓子營業人ニ關スル從前ノ布達及縣令ハ自今廢止ス

明治二十二年二月八日

長野縣知事 木梨精一郎

菓子營業人心得書

第一條 菓子營業ヲ爲ス者ハ菓子税則ヲ遵守シ尙左ノ各條ニ從フヘシ
第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ倣所轄郡役所ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但仕入出賣鑑札モ其本鑑札ノ種別ニ據リ願受クヘシ
第三條 營業人ハ左ノ雛形ニ倣標札ヲ調製シ營業場戶外ニ掲出スヘシ

鑑札番號

菓子製造營業小賣

何縣郡町番地
氏名

木札寸法巾八寸

堅二尺九寸

クノ部 菓子税

二十二年十月九日
日縣令第九號
除

二十二年十月九日
日縣令第九號
除

二十二年十月九日
日縣令第九號
除

二十二年十月九日
日縣令第九號
除

第四條

第五條 稅則第十二條ニヨリ届出ツヘキ雇人ノ員數氏名ハ第三號書式ニ倣差出シ又新ニ出願ノ者ハ願書ト共ニ差出スヘシ但増減ハ其時々届出ツヘシ

第六條 稅則第十三條ニヨリ製造人ヨリ届出ツヘキ製造高及賣上金高ハ第四號書式ニ倣差出スヘシ

第七條

第八條 製造營業人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ但使用後三ケ年間ハ保存シ置クヘシ

菓子賣上帳

賣渡ノ年月日種類數量及代價並買主ノ住所氏名等ヲ廉毎ニ記入シ毎月合計ヲ附シ置クモノトス但小賣ヲ兼タルモノニシテ自製ノ菓子ヲ需用者ニ賣捌キタル分ハ其日締高ヲ以テ記入シ買主ノ住所氏名ヲ記スルニ及ハス

製造原品仕入帳

製造原品ヲ仕入レタルモノハ其種類數量代價及仕入先ノ住所氏名ヲ記入シ毎月合計ヲ付シ置クモノトス

第九條 免許ヲ受ケタル種目ノ外他ノ種目ヲ兼業セントスルハ第六號書式ニ倣差出シ添へ願出ツヘシ

第十條 稅則第五條ノ事故又ハ營業場ヲ移轉シタルモノ若クハ一種專業ノモノ他ノ一種ニ轉業セントスルハ第七號書式ニ倣再渡又ハ書換ヲ願出ツヘシ

第十一條 甲部ノ營業人ニシテ乙部へ移轉セントスル者ハ甲部役所ニ申出免許鑑札ヲ還納シ添翰

ヲ受更ニ乙部役所ニ願出書換鑑札ノ下付ヲ請フヘシ但他府縣ニ移轉スルモノモ本條ノ手續ニ據ルヘシ

第十二條 二種以上兼業ノ者一種又ハ二種ヲ廢業セントスルハ其届書ト共ニ繼續營業ニ係ル鑑札ヲ差出シ訂正ヲ請フヘシ

第十三條 廢業セントスルハ第八號書式ニ倣届出鑑札ヲ還納スヘシ但製造營業人ニ於テハ第六條第七條ノ届出ヲナシ納期ニ拘ハラヌ製造稅ヲ完納スヘシ

第十四條 營業人不在又ハ事故アルハ業務ニ關スル一切ノ事ヲ熟知シタル者ヲ撰定シ委任狀寫ヲ添へ所轄稅員派出所ニ届出ツヘシ

(第一號ノ一)

菓子營業免許願

郡町村番地

營業場

一菓子製造賣賣
製造賣賣
營業

右營業仕度候間免許鑑札御下付相成度此段相願候也

年月日

郡長氏名宛

郡町村番地

氏名印

クノ部 菓子稅

備考

(戸長ノ奥書ヲ要ス以下同シ)

露店又ハ呼賣ノ營業ヲ願フキハ營業場ヲ記入スルニ及ハス第七號第八號書式モ亦同シ
(第一號ノ二)

菓子 仕入鑑札願
出賣

郡町村番地

菓子(製造)
小賣(出賣)營業人誰家族
(雇人)

携帶人 氏 名

右ノ者ヲ以テ菓子(製造)
小賣(出賣)仕度候間鑑札御下付相成度此段相願候也
右

菓子營業人

氏 名 印

年 月 日
郡長 氏 名 宛

(第二號)

菓子營業器物届

一燒 釜 何 何
一煎 釜 個 個

一燒 形 何 何
一木 形 枚 枚

(凡テ營業上ニ要スル器物ヲ列記シ製造卸小賣用ノ區別ヲ
記入スヘシ)

右菓子營業上ニ使用スル器物前記之通相違無之候也

郡町村番地

菓子(製造)
小賣(出賣)營業人

氏 名 印

年 月 日
郡長 氏 名 宛

(第二號)

菓子營業雇人員數氏名届

鑑札番號

一菓子(製造)
小賣(出賣)營業

兼業何々

縣國郡町村番地

雇人 氏 名

同

同 氏 名

(以下同之)

計 何人

右(七月一日)ノ雇人員數住所氏名前記之通相違無之爾後増減有之候節ハ其時々御届可仕候也

郡町村番地

菓子(製造)營業人

氏

名印

年 月 日

郡長氏名宛

(第四號ノ一)

菓子製造高届

一越高何程

此見積代金何圓

一煉羊羹何程

此見積代金何圓

一越高何程

此見積代金何圓

一落鴈何程

此見積代金何圓

一越高何程

此見積代金何程

一カステラ何程

此見積代金何圓

一越高何程

此見積代金何圓

一金米糖何程

此見積代金何圓

一越高何程

此見積代金何圓

一何々何程

此見積代金何圓

見積代金合計何圓

右從何年何月何日至何月何日製造高前記之通相違無之候也

郡町村番地

菓子製造營業人

氏

名印

年 月 日

郡長氏名宛

(第四號ノ二)

菓子賣上金高届

一賣上代金何圓

シノ部 菓子税

但營業人へ賣渡シタル分

(小賣兼業ノ者ナルキハ)

一賣上代金何圓

但店小賣ノ分

右從何年何月何日月至何月何日賣上高金前記之通相違無之候也

郡町村番地

菓子製造營業人

氏

名印

年 月 日

郡長氏名宛

(第五號)

菓子製造原品仕入高及使用高殘高届

越高金何圓

一買人高金何圓

計金何圓

内

使用高金何圓

差引殘高金何圓(又ハナシ)

右從何年何月何日至何月何日仕入高使用高殘高等前記ノ通相違無之候也

郡町村番地

年 月 日

郡長氏名宛

(第六號)

菓子兼業願

菓子製造營業人

氏

名印

鑑札番號

一菓子(製造)營業

郡町村番地

營業場

右御免許營業仕居候處今般菓子(製造)兼業仕度候間最前御下付ノ鑑札相添此段相願候也

郡町村番地

氏

名印

年 月 日

郡長氏名宛

(第七號)

菓子免許鑑札(再換)願

鑑札番號

郡町村番地

營業場

一菓子(製造)營業免許鑑札
右鑑札御下付相成居候處何々(事故詳細)ニ付更ニ御下付(御書換)相成度(鑑札相添)此段相願候也

クノ部

菓子税

年月日 郡長氏名宛 氏名印

(第八號)

鑑札番號 廢業届

郡町村番地

營業場

一菓子 製造 賣賣 小賣 呼賣 營業

右廢業仕度候間鑑札還納此段御届仕候也

郡町村番地

氏名印

年月日 郡長氏名宛

○訓令第四百四十七號

郡役所

菓子稅則取扱心得書別冊ノ通改定シ本年七月一日ヨリ施行ス
但明治十八年六月乙第九號達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

長野縣知事 木梨精一郎

明治二十一年五月二日

菓子稅則取扱心得書

第一項 菓子營業免許鑑札用紙ハ豫メ其員數ヲ見積リ郡長名印ノ書面ヲ以テ收稅長ニ宛テ之ヲ請
求スヘシ

第二項 免許鑑札面ノ記載方ハ第一號雛形ニ倣フヘシ

第三項 菓子仕入鑑札出賣鑑札ハ第二號雛形ニ倣ヒ郡役所ニ於テ調製シ下渡スヘシ

第四項 稅則第五條ニヨリ鑑札ノ再渡若クハ書換ヲ爲スカ或ハ稅則第六條ノ廢業ヲ届出ルトキハ
臺帳ニ其事由ヲ記入シ又臺帳記載ノ廉ニ變更アルホハ之ヲ訂正シ主任郡吏之ニ檢印スヘシ

第五項 露店又ハ呼賣專業ノ者ニハ出賣鑑札ヲ下附スルノ限リニアラス

第六項 料理屋又ハ旅館屋茶店等ニ於テ茶菓子トシテ來客ニ出スモノハ免許鑑札ヲ下附スルノ限
リニ在ラス

第七項 甲郡ノ營業者ニシテ乙郡ニ移轉スル者ニハ甲郡役所ニ於テ左ノ諸項ヲ記シタル添翰ヲ作
リ之ヲ下渡シ乙郡役所ハ其添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ但乙郡役所ニ於テ鑑札下渡
濟ノ上ハ其旨甲郡役所ヘ通知スヘシ其他府縣ニ交渉スル添翰並鑑札渡濟ノ報告モ本文ニ準スヘ
シ

一營業ノ種類

一雇人ノ員數

一移轉前月迄ノ賣上高(製造人ナ)及納稅ノ濟否

第八項 製造人廢業ノ節ハ該期營業中ノ稅額ヲ調査シ知事ニ申報シテ査定ヲ請ヒ納期ニ拘ラス製
造稅ヲ徵收スヘシ但調書ハ第九項ニ準シ調製添付スヘシ

廿二年十二月廿五日
令第二百七十四號
參照

廿二年三月十五日訓令第七十一號ヲ以テ本文ノ通り改正
 廿二年十二月廿五日訓令第二百七十四號參照

- 第九項 郡長ハ營業人心得書第六條ニヨリ製造人ヨリ差出ス賣上金高届書ニ據リ製造税ノ額ヲ調査シ第三號雛形ニ倣ヒ調書貳通ヲ製シ毎年一月七月末日限り知事ニ申報シテ査定ヲ請ヒ其期製造税ヲ徴收スヘシ
- 第十項 郡長ニ於テ税則第十四條ノ製造税額ヲ調査スルニ當テハ前期ノ製造高賣上高等ヲ参照シ尙ホ爾後營業上ノ盛衰ヲ商量シテ其期届出ノ當否ヲ調査スヘシ
- 第十一項 前項ノ場合ニ於テ郡長ハ豫メ製造人壹人別ノ原品使用高製造高賣上高表ヲ製シ置キ其區檢稅主務ノ意見ヲ聽キ當否ノ如何ヲ審査スヘシ但第八項ノ場合ニ於テハ其時々本項ノ手續ヲナスヘシ
- 第十二項 郡長ハ豫シメ各製造人ノ原品仕入高製造高賣上高及其分限高等ヲモ視察シ置キ前項調査ノ資ニ供スヘシ
- 第十三項 郡長ハ檢稅員ヨリ臨時報告スル處ノ書類ヲ參輯シ置キ當期賣上高ノ當否ヲ考察スルハ勿論尙時宜ニ應シ其區檢稅主務ニ協議シテ更ニ實地ノ檢査ヲ求ムルヲアルヘシ
- 第十四項 營業稅臺帳及月計表ハ明治二十年^六訓令第二百七十五號營業人創廢報告ハ同第二百七十七號營業鑑札受拂計算表ハ同第二百七十六號ニヨリ處理スヘシ

附則

第一號雛形

表 面 略 圖

大 日 本 帝 國 政 府

ロ

菓子製造營業免許鑑札

イ

長野縣何郡何町何番地

何 之 誰

主稅局

割 印

ハ

裏
面郡役所
略割
印

明治年月日

長野縣
何郡役所

印

一營業二種以上ヲ兼ルトキハ(イ)符合ノ箇所ニ其兼業名ヲ朱書スヘシ例ヘハ製造卸賣及小賣ノ業ヲ兼ルトキハ製造鑑札ニハ卸賣小賣兼業ト記シ卸賣鑑札ニハ製造小賣兼業ト記載スルカ如シ
一露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ニ下付スルトキハ鑑札用紙(ロ)符合ノ箇所ニ(露店)又ハ(呼賣)ト朱書スヘシ
一營業場營業者住居地ト異ナルトキハ(ハ)符合ノ箇所ニ(營業場長野縣何郡何村何番地)ト記入スヘシ

第二號雛形

木製寸法 豎巾二寸三分横巾一寸七分

表

番號

菓子

仕入 鑑札
出賣

何郡何村何番地

製造(卸賣)小賣人何ノ誰
携帶人 姓名

裏

明治何年何月

長野縣
何郡役所

燒印

第二號雛形

何郡

自明治何年何月菓子製造人一人別
至明治何年何月上
原品使用
製造高及稅額調書

原品使用金高

製造金高

賣上金高

稅金額

町番地

氏名

計							
---	--	--	--	--	--	--	--

右之通調査ヲ遂ケ候條御査定有之度上申候也

年 月 日
知 事 宛

何 郡 長 氏 名 印

○訓令第二百七十四號

郡 役 所

明治二十一年五月訓令第四百七十七號菓子稅則取扱心得書第八項第九項ノ調査ハ自今原品使用金高ノ欄ヲ省キ其地收稅部出張所ニ差出スヘシ

明治二十二年十二月二十五日

長野縣知事 木梨精一郎

○達第七八號

收稅部出張所

明治二十一年五月訓令第四百七十七號菓子稅則取扱心得書第八項第九項ノ調査其他郡役所ヨリ送付ヲ請ケタルハ其調査適當ト認メタルモノ(賣上金高三十四未満ノモノハ指合ニ及ハス)ハ知事名ヲ以テ指合シ不適當ト認ムル但指合用紙ハ別ニ頒ツ

明治二十二年十二月二十四日

長野縣收稅長 久住 秋策

○指示間第一號

間 稅 分 署

菓子製造營業人ニハ自今路店兼業ヲ許可スルヲ得ヘキ義省議決定候旨主稅局長ヨリ通牒有之候條此旨心得ヘシ

明治二十五年一月二十五日

間 稅 署 長
長野縣收稅長 久住 秋策

○コノ部
鑛區稅

○長野縣訓令第七十五號

鑛業稅鑛區稅臺帳樣式別紙ノ通り相定候條所轄鑛山監督署長ヨリノ通知ニ依リ之ヲ整理スヘシ
問 稅 分 署
明治二十五年五月三十日
長野縣知事 淺田 徳則

鑛區所在 地	鑛業人住 所	鑛業人氏 名	鑛業稅		鑛區稅	
			年分製產物價格稅額	年分鑛區坪數稅額		

○キノ部

牛馬賣買稅

○長野縣令第三十一號

牛馬賣買營業人心得書別紙之通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

明治二十五年三月二十四日

長野縣知事 淺田 徳則

牛馬賣買營業人心得書

第一項 牛馬賣買營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ依リ所轄間稅分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二項 營業人若シ免許鑑札ヲ水火盜難若クハ過誤等ニテ遺失毀損セシトキ又ハ改名代替轉居等ノ節ハ第二項ニ書式ニ依リ所轄間稅分署ニ申出免許鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第三項 營業人ノ爲メ施行スルトキハ必ス免許鑑札ヲ携帶シ相當官吏ノ請求アルトキハ速ニ之ヲ示スヘシ

第四項 營業人營業上其他ノ事故アリテ一ヶ月以上引續キ旅行セントスルトキハ同町村内ニ納稅代人ヲ定メ町村役場ヘ届出ツヘシ

第一號書式

牛馬賣買營業免許願

郡町番地

何

某

私義牛馬賣買營業仕度候間免許鑑札何枚御下附被下度此段相願候也

年月日

長野縣知事宛

(町村長ノ與書ヲ要ス以下皆同シ)

第二號書式ノ一

牛馬賣買免許鑑札再渡願



第何號

一牛馬賣買免許鑑札 何枚

郡町番地

何

某

右ハ豫テ御下附相成居候處今般何々ニ依リ(事故年月日等詳)(燒失)(流失)(遺失)(盜難ニ罹リ)候間更ニ御下附被下度此段相願候也

年月日

長野縣知事宛

第二號書式ノ二

牛馬賣買免許鑑札書換願



郡町番地

何

某

第何號

一牛馬賣買免許鑑札 何枚

何

某

右ハ豫テ御下附相成居候處今般何々ニ依リ(事故年月日等詳)(毀損)(改名)(代替)(轉居)仕候間左ノ通(毀損ノ場合ニ限リ左ノ通)御書換被下度鑑札相添此段相願候也(リノ四字記載ニ及ハス)

年月日

長野縣知事宛

郡町番地(毀損ノ場合ニ限リ此處ヘ)

何

某

○シノ部
酒造税

○長野縣令第五十一號

明治二十二年二月縣令第九號酒造營業人心得書別冊之通改正シ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十三年九月十二日

長野縣知事 内海 忠勝

酒造營業人心得書

第一條 酒造免許ヲ受ケントスルモノハ新規ト繼續トヲ問ハス凡テ不動産調書ヲ願書ニ添付スヘシ

酒造税則第一條第二項ニ該當スルモノハ保證物件調書若クハ保證人ノ所有不動産調書又ハ所得稅納額調書ヲ願書ニ添付スヘシ

造石税免除ノ酒類ハ前項ノ調書ヲ要セスト雖モ詳細ナル製造方法書ヲ添付スヘシ

第二條 營業人ノ所有不動産調書又ハ保證人ノ所有不動産調書所得稅額調書ニ異動ヲ來シタルハ直ニ届出ヘシ

第三條 營業上代理人ヲ置クハ委任狀寫ヲ添本人并代人連署ヲ以テ届出スヘシ

第四條 戸外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製スヘシ其見込石數ヲ増減シタルハ届出ノ時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更訂スヘシ皆造石検査済ノ時モ亦同シ

第何號
清酒何石造
白酒何石造
長野縣何郡何番地
氏名

寸法堅曲尺三尺横巾ハ酒類ノ數ニヨリ適宜
番號ハ免許鑑札ノ番號ヲ記ス
酢元用酒類ハ酢元用ノ三字ヲ冠スヘシ

第五條 桶鑿類ノ番號ハ酒造場一ヶ所毎ニ起號シ其員數ニ應シテ順次ヲ定ム
第六條 桶鑿類ハ調査簿甲乙二帳ヲ製シ甲帳ハ租稅檢査員派出所ニ備置乙帳ハ營業人ニ下付シ増減ノ都度租稅檢査員ニ於テ加除スルヲ以テ營業人ハ其時々之ニ請印スヘシ
第七條 酒類ノ配醪仕込桶遣ヒ順序及ヒ仕込桶遣ノ順號ヲ定メ若手五日以前ニ届出爾後變換シタルハ其時々届出ヘシ
第八條 酒配燒酎ノ元類味林ノ元燒酎ノ類共及釀酒白酒ハ熟成ノ期日ヲ豫定シ十日前ニ申出檢査ヲ受クヘシ
第九條 酒粕ハ其製酒ト同時ニ檢査ヲ受クヘシ檢査未済ノ酒粕ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス
第十條 檢査済ノ酒配數個ヲ一ト桶ヘ合併シ漸次使用スルモノハ其使用スルニ從ヒ配何個何分何厘ト記載シタル紙ヲ桶側面ニ貼付シ置クヘシ
第十一條 醪ハ一ト仕舞毎ニ分界ヲ立擡揚ケ製酒ノ檢査ヲ受クヘシ若ニ仕舞以上ヲ合併シテ擡揚ケントスルハ其旨豫メ申出租稅檢査員ノ承諾ヲ受クヘシ
第十二條 酒配ハ檢査済ト否トヲ問ハス醪及清酒ハ檢査未済ノモノヘ左記ノ紙札ヲ貼付シ空桶ハ白字ヲ以テ桶側面ヘ空ノ字ヲ大書スヘシ
第一 酒配ハ坪臺桶ニ移シタルハ其坪臺桶ニ配立ノ順號及月日ヲ一個毎ニ記載スヘシ

第何號
何月何日

第二 醪仕込ノ際枝桶ヲ使用スルハ添中留ニ拘ラス其枝桶ニハ甲號ノ如ク記載シ仕込済ノモノハ乙號ノ如ク記載スヘシ

甲 號
何號仕込ノ内

乙 號
第何號仕込
何月何日留

第三 清酒ハ擡揚ケノ度毎ニ其擡リタル醪ノ仕込順號ヲ記載スヘシ

清酒 第何號
第何號 擡リ

第四 酢元用酒類製造者ニシテ其酒類ヲ以テ酢ヲ製造シタルハ甲號ノ如ク記載シ酒粕其他ノ種類ヲ以テ酢ヲ製造シタルハ乙號ノ如ク記載スヘシ

甲 號
第何號 何月何日
酒類 元製 酢

乙 號
第何號 何月何日
他酒類 其 元製 酢

第十三條 不用ノ酒配ヲ同業者ニ賣渡サントスルトキハ雙方連署ノ書面ヲ以テ申出検査ヲ受クハシ若シ其買受人租税検査區畫外ナルキハ租税検査員ヨリ證明書ヲ得テ所轄租税検査員派出所ニ届出ヘシ

第十四條 未製成ノ酒類ヲ販賣セントスルキハ其旨申出検査ヲ受クヘシ但同業者ニ係ルキハ雙方ノ連署ヲ以テ申出ヘク其買受人租税検査區畫外ナルキハ租税検査員ヨリ證明書ヲ得テ所轄租税検査員派出所ニ届出ヘシ

第十五條 二ヶ所以上免許ノ者甲ノ酒造場ニ於テ製造シタル配醪ヲ乙ノ酒造場ヘ移サントスルキハ其旨届出検査ヲ受クヘシ

第十六條 検査済ノ滓酒ヲ醪ヘ混和シ搾リ揚ントスルモノハ其着手前ニ申出石數ノ検査ヲ受クヘシ

第十七條 再製シ得ヘカラサル腐敗酒等ヲ酢元其他ニ販賣セントスルキハ其石數代價及所用ノ見込ヲ記載シ買受人連署ヲ以テ届出ヘシ

第十八條 租税検査員携帶ノ造石検査簿ハ配醪製酒共検査ノ都度記入スルヲ以テ營業人ハ之レニ請印スヘシ

第十九條 造酒器機ノ開封及封緘ヲ受ケタルキハ其時々請書ニ調印ヘスシ

第二十條 封緘セシ器械ノ洗滌又ハ修繕ヲ要スルキハ日數ヲ豫定シ其着手五日以前ニ申出ヘシ

第二十一條 酒類皆造ノ際ハ申出總石數ノ検査ヲ受クヘシ

第二十二條 廢業ノ節ハ直ニ届出免許鑑札ヲ還納スヘシ

第二十三條 古酒並ニ買入酒ヲ所持スルモノハ翌期ノ初メニ於テ現在石數ノ検査ヲ受ケ以後酒類

ヲ買入レタルキハ必ス仕切書又ハ送り狀等ヲ受取置租税検査員ノ檢閲ヲ受クヘシ

第二十四條 酢造營業者ニシテ酢元用ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スルモノモ前各條ニ準據スヘシ

第二十五條 酒造税則同施行細書及此心得書ニ依リ差出スヘキ願届書ノ様式ハ左ノ如ク之ヲ定ム其様式ヲ示サ、ルモノハ適宜調製スヘシ

新規酒造營業免許願 第一號様式

引續酒造營業免許願 第二號全

不動産調書營業人ノ部 第三號全

全 保證人ノ部 第四號全

所得税額調書 第五號全

保證狀 第六號全

不動産異動届 第七號全

所得税額異動届 第八號全

酒造免許鑑札書換願 第九號全

酒造免許鑑札再渡願 第十號全

酒造廢業届 第十一號全

酒造見込種目並石數届 第十二號全

酒類釀造方法書 第十三號全

酒造場建物諸器機及區域外 第十四號全

倉庫等附屬地調査 第十五號全

造酒見込石數増(減)届

醱酵仕込桶遣ヒ順序調書 第十六號全
 酒造用容器容積検査願 第十七號全
 造酒^{蒸溜}器封緘請書 第十八號全
 器械開封願 第十九號全
 配(醪)検査願 第二十號全
 燒酎蒸溜元粕検査願 第二十一號全
 燒酎検査願 第二十二號全
 古酒(或ハ買入)粕漉届 第二十三號全
 何酒皆造検査願 第二十四號全
 第二十六條 營業人ニ於テ調製スヘキ帳簿ハ第二十五號乃至第三十二號様式ニ倣ヒ其時々記入ス
 ハシ
 酢元用酒類製造者ハ仕込帳ノ外酢製造帳ヲ調製スヘシ若シ他ヨリ買入タル酒粕及其他ノ酒類ヲ
 以テ製造スルキハ各別ニ記載スヘシ
 本條ノ帳簿ハ使用後三ヶ年以上之ヲ保存スヘシ
 第二十七條 酒造ニ關スル願届書類ノ内第二十五條第一號乃至第十一號様式ノ分ハ收稅部出張所
 へ差出スヘク其餘ノ書面ハ租稅検査員派出所へ差出スヘシ
 租稅検査員派出所へ差出スヘキ書面ニハ町村長ノ奥書ヲ要セス

第一號

新規酒造營業免許願

國郡町番地 酒造場
 一何酒何百何十何石
 一何、、、、
 右酒造場ニ於テ明治何年期酒造營業仕度候間免許鑑札御下附相成度別紙圖面及
 同業者連署ヲ以テ此段相願候也
 保證人相定
 (不動産) 圖書相添

年 月 日

國郡町番地(寄留)
 (原籍國郡市區町番地)
 願人 何 某印
 國郡町番地
 酒造營業人 何 某印
 (以下同業者連署之ニ倣フ)

第二號

知事宛

引續酒造營業免許願
 免許鑑札第何號
 國郡町番地 酒造場

シノ部 酒造稅

一何酒何百何十何石

右酒造場ニ於テ引續明治何年期酒造營業仕度候間御免許相成度〔保證人相定メ
保證物
(不動産)調書相添圖面及鑑札相添此
段相願候也

年 月 日

知事宛

第三號

不動産調書

國郡町番地(寄留)
(原籍國郡市區町村番地)
願人 何 某印

國郡町番地(寄留)
(原籍國郡市區町村番地)何 某

國郡(市區)町(村)大字
第何番字

一田何反何畝步

此地價金何百何十圓

此賣買見積價格何百何十何圓

此地租金何圓何十錢

一畑

一宅地

一山林

一何々

國郡(市區)町(村)大字番地字宅地内建築

シノ部 酒造稅

一建物

何棟 繪圖面添
此賣買見積價格何千何百何十圓

内譯

瓦葺二階建居家

一棟

此坪數何十何坪

此賣買見積價格何百何十何圓

板葺平屋建物置

何棟

此坪數何十何坪

此賣買見積價格何百何十何圓

瓦葺土藏

何棟

此坪數何十何坪

此賣買見積價格何百何十圓

何々

計賣買見積價格何千何百何十何圓

右ハ明治何年期酒造營業御免許相願候ニ付所有之不動産現賣買價格取調候處前書之通相通無之候也

(以下前書式ニ準スヘシ)

備考

一書入質入ニ係ルモノハ其左傍ニ質入書入ノ文字ヲ記スヘシ

第四號

不動産調書

國郡町(村)何番地

何 某

不動産物件記載方ハ本人ノ書式ニ準ス

右ハ國郡(市區)町(村)何番地何某明治何年期酒造營業御免許相願自分保證人ニ相立候ニ付所有不動産現賣買價格取調候處前書之通リ相通無之候也

(以下前書式ニ準スヘシ)

第五號

所得稅額調書

國郡町(村)何番地

何 某

一所得稅金何十何圓何十錢

但資産ヨリ生スル分

右ハ國郡(市區)町(村)番地何某明治何年期酒造營業御免許相願自分保證人ニ相立候ニ付所得納稅額取調候處前書之通相通無之候也

(以下前書式ニ準スヘシ)

備考

資産ヨリ生スルモノト資産外ヨリ生スルモノト兩様アルキハ其内譯ヲ記シ又資産外ヨリ生スル

モノナルキハ但書ヲ其旨趣ニ改ムヘシ
第六號ノ一

保 證 狀

印 紙 印 紙

國郡町(村)何番地(寄留)
(原籍國郡市區町村番地) 何 某

一何酒何百何十何石

此造石税金何百何十圓

計造石税金何千何百何十圓

此保證物

一何分利付何公債證書記號番號何圓券

此賣買見積價格何圓

一大藏省證券記號番號何圓券

一日本銀行株券

一正金銀行株券

何 何 一 一
枚 枚 枚 枚

一第何十國立銀行株券

一何々會社(株)券

一何々(府縣)(郡)(市)(町)(村)公債記號番號何圓券

國郡(市區)(町)(村)大字
番地字

一田何反何畝何步

此地價金何百何十何圓

此賣買見積價格何百何十何圓

一宅地

此地租金何圓何十錢

何 何 何
枚 枚 枚

一山林

シノ部 酒造税

國郡(市區)町(村)大字番地字宅地内建築
一 建物 何棟 繪圖面添

此賣買見積價格何千何百何十圓

内 譯

瓦葺二階建居家

此坪數何十何坪何合

此賣買見積價格何百何十何圓

板葺平屋建物置

、 、 、 、 、

瓦葺土藏

、 、 、 、 、

、 、 、 、 、

、 、 、 、 、

一 何々

計賣買見積價格何千何百何十何圓

右ハ明治何年何酒造營業免許相成候上ハ稅則ニ從ヒ納稅可仕若シ不納候節ハ前記保證物御賣拂
(御引去)之上稅金御徵收相成候共聊異議無之候也

(以下前書式ニ準スヘシ)

第六號ノ二

保 證 狀

國郡町(村)何番地

何

某

印 紙

一 何酒何百何十何石

此造石稅金何百何十何圓

、 、 、 、 、

、 、 、 、 、

計造石稅金何千何百何十何圓

右之者明治何年何酒造營業御免許相成候ニ付若シ本人ニ於テ稅金不納候節ハ私ニ於テ本人ニ代リ
直ニ辨納可仕仍テ(所有不動産調査相添)保證仕候處相違無之候也
(以下前書式ニ準スヘシ)

第七號

不動産異動届

國郡(市區)町(村)番地酒造營業人
(國郡町(村)番地何某保證人)

何

某

國郡(市區)町(村)大字
第何番地字

一田何反何畝何步

此地價金何百何十何圓

此賣買見積價格何百何十何圓

明治何年何月何日何某(賣渡)讓渡(質入)(抵當ニ書入)

右ハ明治何年何月何日差出置候所有不動産調書之内前書之通異動候間此段及御届候也

(以下前書式ニ準スヘシ)

第八號

所得納稅額異動届

國郡(市區)町(村)何番地酒造營業人
何某保証人國郡町(村)何番地

何 某

一所得税金何十何圓何十錢

但資産ヨリ生ヌル分

右ハ何年何月何日差出置候所得稅額ノ外増加致候間此段及御届候也

備考 (以下前書式ニ準スヘシ)

第五號備考ニ同シ

第九號

酒造免許鑑札書換願

酒造場郡
町村番地

郡町村番地

賣(讓渡)主

何 某

酒造場郡
町村番地

郡町村番地

買(讓受)主

何 某

右者第何號酒造免許鑑札今般示談ノ上賣渡(讓渡)致候間鑑札御書換相成度鑑札相添此段相願候也
(以下前書式ニ準スヘシ)

備考

代替ニ付書換ヲ請フ者ハ其相續ノ年月日ヲ記入スヘシ

第十號

酒造免許鑑札再渡願

郡町村番地

酒 造 場

右者第何號酒造免許鑑札豫テ御渡相成候處何々(事故詳細記)ニテ紛失(燒失)候ニ付新鑑札御下附相成度此段相願候也
(以下前書式ニ準スヘシ)

第十一號

酒造廢業届

郡町村番地

酒造場

第何號
一 免許鑑札 壹枚

右酒造場ニ於テ營業仕居候處何々ノ都合ニ據リ廢業仕候間免許鑑札返納此段御届仕候也
(以下前書式ニ準スヘシ)

第十二號

酒造見込種目並石數届

郡町村番地
酒造場

免許鑑札番號

一 清酒何千何百何十何石

白米 何千何百石

汲水 何千何百石

配 何十何個

一 燒酎何十何石

酒粕 何百何十貫匁

腐敗酒何十何石

一 酒精何十何石

酒粕 何百何十貫匁

但幾仕舞ノ見込玄米ヨリ春減何割

但一ト配蒸米何斗

但平均度數何度

但幾釜蒸溜ノ見込

但平均度數何度

但同上

燒酎何十何石

一 味淋何百何十何石

白米 何百何十何石

燒酎 何百何十石

一 銘酒何十石

味淋 何石

燒酎 何石

地黄 何百匁

桂枝 何百匁

忽冬 何百匁

但幾仕込ノ見込

但同上

右者明治何年期造酒見込種目及石數前書之通ニ有之候尤以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也

(以下前書式ニ準スヘシ)

備考

濁酒ハ清酒ニ白酒ハ味淋ニ倣記載スヘシ

第十三號

酒類釀造方法書

郡町村番地
酒造場

免許鑑札番號

何配一個釀造法
 一蒸米何斗
 一麴米何斗何升 但何割
 一水何斗何升 但十水又ハ何水
 此見込配何石何斗
 清酒一ト仕舞釀造法
 配米何斗 内蒸米何斗 但一個何分何厘使用
 此仕込水何斗 但十水又ハ何水
 初添米何石何斗 内蒸米何石 但何割
 此仕込水何石何斗 但十水又ハ何水
 中添米何石何斗 内蒸米何石 但何割
 此仕込水何石何斗 但十水又ハ何水
 留米何石何斗 内蒸米何石 但何割
 此仕込水何石何斗 但十水又ハ何水
 合仕込水何石何斗 但白米一石ニ付仕込水平均何石何斗
 此見込配何石何斗 但白米ヨリ何割何分ノ見込
 此見込清酒何石何斗 但醪ヨリ何割何分ノ見込
 燒酎一ト釜蒸溜法
 元粕何十貫匁 但粕十貫目ニ付伺升取ノ見込

此見込燒酎何斗 但度數何度
 元腐敗清酒何石 但元一石ニ付何斗取ノ見込
 此見込燒酎何斗 但度數何度
 味淋一ト仕込製造法
 元燒酎何石
 掛米何石何斗 内蒸米何石 但何味造即チ燒酎何石
 此見込醪何石何斗 但白米ヨリ何割何分ノ見込
 此見込味淋何石何斗 但醪ヨリ何割何分ノ見込
 銘酒一ト仕込製造法
 元 燒酎何石
 味淋何石
 加味 地黄何百匁 桂枝何百匁 忍冬何百匁
 此見込醪何石 但元酒ヨリ何割何分ノ見込
 此見込銘酒何石 但醪ヨリ何割何分ノ見込
 右ハ明治何年期酒類釀造方法前書ノ通ニ有之候尤以後變更候節ハ其時々御届可仕候也
 備考 (以下前書式ニ準スヘシ)
 濁酒ハ清酒ニ酒精ハ燒酎ニ白酒ハ味淋ニ倣記載スヘシ

新酒寒酒ノ類ニシテ米水ノ割合等其醸法ヲ異ニスルモノハ特ニ別記スヘシ
醪ヘ焼酎ヲ混和シテ搾リ揚クルモノハ一種ノ醸造法トシテ方法書中ニ記載スヘシ
醸造方法變更届書ハ前文例ニ準據スヘシ
第十四號ノ一

酒造場建物諸器械及區域外倉庫等附屬地調査

郡町村番地

酒造場

免許鑑札番號
一酒造場建物

内

酒造ニ屬スル分

一倉庫 何間 何坪

但二階 何間 何坪 穴藏 何間 何坪

一同 何間 何坪

但掛出 何間 何坪 麴室 何間 何坪

一穀藏 何間 何坪

一納屋 何間 何坪

一何々 何間 何坪

一何々 何間 何坪

區域外倉庫建物酒造場附屬ノ分

郡町村番地

酒造場附屬地

一倉庫 何間 何坪

但二階 何間 何坪 穴藏 何間 何坪

一同 何間 何坪

但掛出 何間 何坪 麴室 何間 何坪

酒造ニ屬セサル分

一居宅 何間 何坪

一倉庫 何間 何坪

一納屋 何間 何坪

酒造ニ使用スル諸器械

一桶甕並水桶米浸桶粕桶 第何號ヨリ

内欠號 何個 第何號 第何號

一酒槽 第何號ヨリ 第何號 第何號

内借入 何個

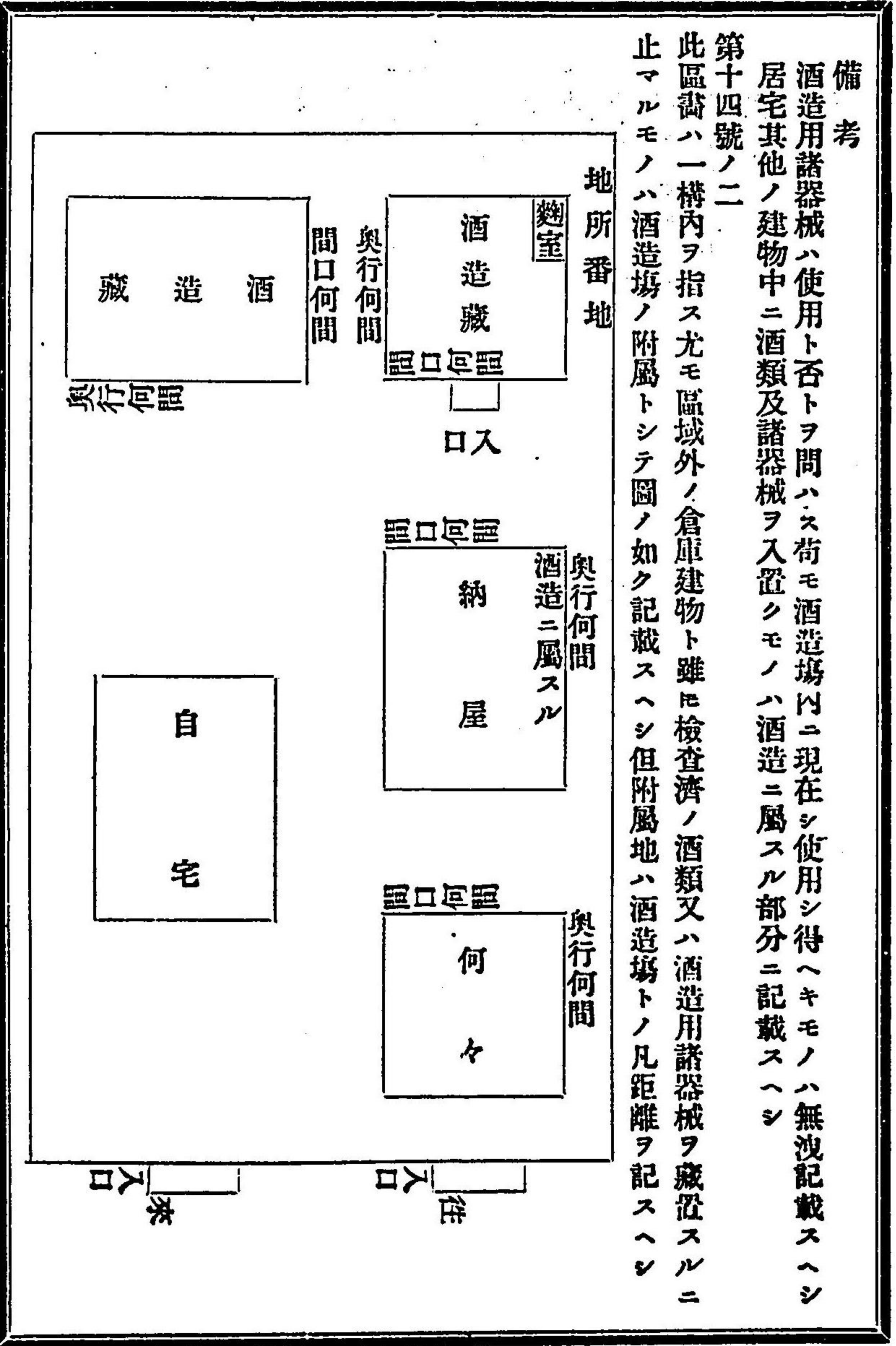
一層粹 何個

一男柱 第何號ヨリ 第何號 何本

シノ部 酒造稅

- 一 薪メ木 何本
- 一 掛ケ袋 何個
- 一 垂ン斐 何個
- 一 蒸溜器 第何號ヨリ 幾組
- 一 礎 幾組
- 一 甌 但何石何斗入 何個
- 一 蒸釜 但何石何斗入 何個
- 一 半切桶 何個
- 一 試シ桶 但何斗何升何合入 何個
- 一 暖氣樽 何個
- 一 桃桶 何個
- 一 擔桶 何荷
- 一 柄杓 何個
- 一 水通ヒ桶 但何斗何升入 何個
- 一 水汲桶 但何升何合何夕入 何個
- 一 麴板 何枚
- 一 櫃 何個

右酒造場建物及諸器械即今所持ノ分前記ノ通相違無之候尤モ以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也
 (以下前書式ニ準スヘシ)



備考
 酒造用諸器械ハ使用ト否トヲ問ハス荷モ酒造場内ニ現在シ使用シ得ヘキモノハ無洩記載スヘシ
 居室其他ノ建物中ニ酒類及諸器械ヲ入置シモノハ酒造ニ屬スル部分ニ記載スヘシ
 第十四號ノ二
 此區畫ハ一構内ヲ指ス尤モ區域外ノ倉庫建物ト雖モ検査済ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ
 止マルモノハ酒造場ノ附屬トシテ圖ノ如ク記載スヘシ但附屬地ハ酒造場トノ凡距離ヲ記スヘシ

第十五號

造酒見込石數増(減)届

郡町村番地

酒造場

何年月日御届高

免許鑑札番號

一清酒何百何十何石

白米何百何十石

汲水何百何十石

配何十何個

一清酒何十何石

白米何十何石

汲水何十何石

配何十何個

合計

清酒何百何十石

白米何百何十石

汲水何百何十石

配何十何個

(減造届ハ左ノ如ク記載スヘシ)

一清酒何百何十石

今度増造ノ分但玄米ヨリ替減何割
但石仕舞何個ノ見込
一ト配麹米何斗

但年月日御届高

第十六號

配糲仕込桶造と順序調書

郡町村番地

シノ部 酒造税

白米何百何十石

汲水何百何十石

配何十何個

内

清酒何十何石

白米何十何石

汲水何十何石

配何十何個

差引

清酒何百何十石

白米何百何十石

汲水何百何十石

配何十何個

右ハ明治何年期酒造見込石數前書ノ通増(減)造仕候此段御届仕候也

備考

都テ酒類ノ増減ハ右ニ準據スヘシ

(以下前書式ニ準スヘシ)

今度減造ノ分
何石仕舞何個ノ見込
一ト配麹米何斗

酒造場

免許鑑札番號

配取半切桶遺法

最初

半切何枚ニ分配

二次

半切何枚ニ合縮

三次

半切何枚ニ合縮

四次

半切何枚ニ合縮

五次

坪臺桶一個ニ入

醱仕込桶遺法

初添

三尺桶何本

中添

同 何本

留

仕込桶 何本
三尺桶 何本

最後仕込桶何本

(之レハ口打トナリシ
組合ト心得ヘシ)

醱仕込桶遺順號

第何號桶

仕込順號

第一號

第六號

第十一號

同 第何號桶

第二號

第七號

第十二號

同

第何號桶

第三號

第八號

同

第何號桶

第四號

第九號

同

第何號桶

第五號

第十號

右ハ明治何年度醱仕込桶遺ト順序前書ノ通ニ有之候尤増減並變更等有之節ハ其時々御届可仕候也

郡町村番地

酒造營業人

何 某印

年 月 日

長野縣租稅検査員何地派出所宛

備考 清酒外酒類モ之レニ準據スヘシ

第十七號

酒造用容器容積検査願

郡町村番地

酒造場

免許鑑札番號

第何號

一桶

シノ部 酒造稅

四百六十七

但新調(買入)(譲受)(修繕)

- 口 徑 何尺何寸何分
- 第一洞徑 何尺何寸何分
- 第二洞 何尺何寸何分
- 第三洞 何尺何寸何分
- 底 徑 何尺何寸何分
- 深 サ 何尺何寸何分

此石敷何十何石何斗何升何合

第何號

一覽

但買入(借入)

此石敷何石何斗何升何合

右容積御検査相成度相願候也

(但水量試シ)

(以下前書式ニ準スヘシ)

備考

新調買入等ノ番號ハ在來桶罌ノ順號ヲ逐ヒ起號スヘシ若シ順號中欠號アルキハ其欠番ヲ填補スヘシ

第十八號

造酒樽器機械封緘請書

造酒器械ノ内左ノ品々へ御封印相請候ニ付該器械使用又ハ洗滌修繕等ノ節ハ其旨申立御解封可願上尤御解封ノ上ハ左ニ掲クル日數中ニ必ス使用又ハ洗滌等ヲ了リ御再封相請可申候仍テ御封緘並

御解封ノ都度其年月日使用又ハ洗滌修繕日數ヲ左ニ掲載シ御請仕候也

郡町村番地

酒造營業人

何 某印

年月日
長野縣知事宛

免許鑑札番號

郡村町番地
酒造場

器械番號	同品目	御封緘所	御開封上願ノ事由	御封印年月日	御開封年月日
何 號	酒 槽	一ヶ所	洗 滌	明治何年何月何日	明治何年何月何日
何 號	男 柱	一ヶ所	修 繕	明治何年何月何日	明治何年何月何日
何 號	兜 釜	一ヶ所	使 用	明治何年何月何日	明治何年何月何日
何 號	蒸溜器	一ヶ所	同	明治何年何月何日	明治何年何月何日

シノ部 酒造税

備考

○印ノ處へ検査員○印ノ處へ營業人捺印スルモノトス
第十九號

器械開封願

第何號

一酒槽

一個

第何號

一男柱

一ヶ所

第何號

一蒸溜器械

何ヶ所

右豫テ御封印相成居候處來ル何月何日ヨリ何月何日迄洗滌(修繕)仕度候間御開封相成度此段相願
候也
(以下前第十七號ニ準ス)

第二十號

酏(醪)検査願

郡町村番地

酒造場

一酏第何號仕込ヨリ
第何號仕込マテ

何個

但何月何日ヨリ何月何日マテ配立ノ分來ル何日頃熟成ノ見込

一醪第何號仕込ヨリ
第何號仕込マテ

幾仕舞

但何月何日ヨリ何月何日マテ仕舞ノ分來ル何日頃熟成ノ見込ニ付御検査ノ上搾器械御開封相

成度

右御検査相成度此段相願候也

(以下前書式ニ準スヘシ)

第二十一號

燒酎蒸溜元粕検査願

郡町村番地

酒造場

一清酒搾粕何貫何百目

此燒酎見込何程

但一ト釜何百目幾釜
平均何度燒酎何程ノ見込

一何々何程

此燒酎見込何程

但一ト釜何百目幾釜
平均何度燒酎何程ノ見込

計何程

燒酎何程

右ハ何月何日ヨリ蒸溜着手仕度候間御検査ノ上器械御解封相成度此段相願候也
(以下前書式ニ準スヘシ)

第二十二號

燒酎検査願

郡町村番地

酒造場

一燒酎幾釜

但平均何度

此元粕何貫何百目

右ハ何月何日ヨリ何月何日マテ蒸溜ノ分御検査相成度此段相願候也(以下前書式ニ準スヘシ)
第二十三號

古酒(或ハ買入) 粕漉届

郡町村番地

酒 造 場

明治何年何月何日何日マテ越高ノ内

一古清酒何程

一清酒搾粕何程

何月何日粕漉着手ニ付器械御解封被下度何月何日釀成ニ付器械御封緘被下度

右古清酒ノ義ハ火落(或ハ)賣捌方差問候ニ付前記ノ粕ヲ以粕漉仕度候間御検査相成度此段及御届候也
(以下前書式ニ準スヘシ)

第二十四號

何酒皆造検査願

郡町村番地

酒 造 場

免許鑑札番號

一何酒 何程

一同 何程

合 何程

何年何月何日見込御届高
何年何月何日増石御届高

内 何程

差引 何程

此白米

配

一何酒

一何酒

内

第何號桶

何酒

第何號桶

同

合何酒

内

何程

何程

外 何程

一何酒

内

何程

更 定 高
何年何月何日減造御届高

御検査済石高
今度御検査受クヘキ分

但桶側面記載ノ通

但入實深何尺何寸何分

見込石數ニ増

見込石數ニ減

何月何日現在高

自家製造

何程
何程
何程
古酒
新酒
買入酒
右ハ明治何年期造酒石高書面ノ通相違無之候也
第二十五號
(以下前書式ニ準スヘシ)

表	裏
明治何年期 酒造原品受拂帳	郡町村番地 酒造營業人何某 免許鑑札第何號

凡例

一此帳簿ハ清酒濁酒等其種類ニヨリ口別ヲナシ一種類毎ニ受ノ部ト拂ノ部トヲ記載スヘシ
一麴ヲ他ヨリ買入レタルキハ其使用種類ノ部へ原白米石數ヲ記載シ拂ノ部ニハ其使用區分ニヨリ記入スヘシ
一酒造米ハ總テ白米ノ石數ヲ記入スヘシ
一月末ニ至リ小計ヲ付シニケ月目ヨリ通計ヲ付スヘシ
清酒(濁酒)ノ部
受

月日
一白米何十何石何斗
代金何百何十何圓何十錢

一、、、、、
代金、、、、、
小計何百何十何石

月日
一白米何石何斗
配米

シノ部 酒造稅

表

	仕	、
	込	、
	帳	、

裏

	、	、
	、	、
	、	、
	、	、
	、	、

凡例

- 一此帳簿ニハ配取ト醸仕込ト各別ニ記入スヘシ
- 一配取及仕込ハ醸造法同一ナルモノハ一々蒸麴水等記載ニ及ハスト雖ハ順號月日ハ勿論一ト仕舞ノ計ニハ必ス石數ヲ記載スヘシ
- 一清酒外ノ酒類ヲ醸造スルモノハ別ニ口分ケヲナシ記載スヘシ

		配取ノ部	
第一號	月	日	水配
蒸米			何程
麴米			何程
汲水			何程
第二號	月	日	生配
同上			(醸造法同一ノモノハ一々記スルニ及ハス)
第五號	月	日	生配
第七號	月	日	同上
小計 (一ヶ月毎ニ小計スヘシ)			
蒸米			何程
麴米			何程
汲水			何程
通計	(二ヶ月目ヨリ通計ヲ付スヘシ)		何程
蒸米			何程
麴米			何程

シノ部 酒造税

シノ部
酒造税

汲水	計	蒸米	麴米	汲水	第二號	蒸米	配麴米	汲水	蒸米	添麴米	汲水	蒸米	中麴米	汲水	月
日				日			日		日		日		日		日
何程		何程	何程	何程		何程	何程 第二號一個 第三號五分	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程

四百八十一

汲水	(以下之ニ倣フ)	第一號	蒸米	配麴米	汲水	蒸米	添麴米	汲水	蒸米	中麴米	汲水	蒸米	留麴米
何程	仕込ノ部	月			日			日		日			日
	(配立ノ月日)		何程	何程 第一號	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程

四百八十

(以下前ニ倣フ)
 表込酒ノ部
 一何程 月 日
 内 何程
 何程
 月 日
 (以下前ニ倣フ)
 新古
 酒酒

第三十一號

表

	酒類賣上帳	

裏

凡例

- 一此帳簿ニハ新古酒混和酒ヲ區別シ無洩記載スヘシ
- 一割水ヲ爲シタルトキハ其水量ヲ外書ニ記載スヘシ
- 一小賣ハ其石數代金ヲ日計シ記入スヘシ

新酒ノ部
 月 日
 一何酒何程 卸賣
 代金何程
 一何酒何程 小賣
 代金何程
 計 代金何程
 郡町村番地
 氏 名

シノ部 造酒税

乙第七號

郡 役 所

西洋模造酒ノ義(麥酒葡萄酒ヲ除ク)ハ砂糖及菓實製ノ(アルコール)ヲ用ユルノ外米穀又ハ酒粕製ノ(アルコール)ヲ使用スル分ハ酒名ノ何タルヲ問ハス酒造稅則第三條第三類酒トシ課稅候條至急營業人へ諭達スヘシ此旨相違候事

長野縣令 大野 誠

長野縣訓令第九十號

間 稅 署
間 稅 分 署

酒造稅則取扱手續左ノ通改正ス

長野縣知事 淺田 徳則

明治二十四年九月十九日

酒造稅則取扱手續

第一號 酒造營業ノ願書ヲ受ケタルキハ先ツ其所有不動産調書ニ記スル價格ノ當否ヲ勘査シ次ニ稅則第一條二項ニ該當スヘキヤ否ヤヲ調査スヘシ
第二條 不動産調書ニ記スル價格不適當ニシテ稅則第一條二項ノ三ニ該當スヘシト認ムルモノハ其理由ヲ示シ調書ヲ更メシムヘシ
若シ此指示ニ異議アリ調書ヲ更ムルコトヲ肯セサルキハ其事由ヲ記シタル書面ヲ徵シ分署限評價人ヲ撰定シ施行細則第六條二項ノ手續ヲナスヘシ

二十五年九月三十日
令百三十三號
九號
九號
九號

第三條 稅則第一條二項ニ該當スト認ムルモノハ保證物件ノ適否及ヒ保證人ノ資格如何ニ就キ納稅ノ保證ト爲スニ足ルヘキカ否ヲ審査スヘシ其不適當ト認ムルモノハ之ヲ更メシムヘシ

若シ此指示ニ從ハサルキハ保證物件ノ價格ニ就テハ前條二項ニ據リ其他ハ其事由ヲ具シ本署ノ指揮ヲ請フヘシ
第四條 願人ノ所有不動産及保證トシテ徵スヘキ土地建物ハ書入賈入トナシタルコトナキカ否ハ登記所ニ就キ調査ヲ遂ケ其所轄外ナルキハ所轄間稅分署長ニ囑託スヘク他管ニ係ルモノハ本署ニ申出ヘシ但價格ノ調査方ニ就テモ本文ニ準ス

第五條 稅則第一條二項ニ該當スヘキモノヨリ徵スヘキ保證ノ程度ハ見込造石稅四分ノ一以上四分ノ二以下トス
第六條 前各條ニヨリ保證書ヲ徵シタルキハ登記ヲ經ヘキモノハ其手續ヲ盡シタル上其他ハ直チニ鑑札ヲ下付スヘシ

第七條 前條下付濟ノ上ハ營業人一人別造酒見込石并ニ保證物件數量等ヲ詳記シ直ニ申報スヘシ
第八條 保證書ハ抵當物件ヲ除ク外總テ間稅分署長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第九條 營業免許後ニ至リ保證物又ハ保證人ヲ要スヘキ事故ノ生シタルキ並ニ免許鑑札書換出願書ヲ受ケタルキハ前各條ニ準シ取扱フヘシ
前項ノ場合ニ於テハ第七條ニ準シ一ヶ月毎ニ申報スヘシ

第十條 稅則第十六條ノ場合ニ於テハ間稅官吏ノ報告ニヨリ審査シ造石稅免除ノ手續ヲナシ申報スヘシ

第十一條 稅則第十六條ノ場合ニ於テハ間稅官吏ノ報告ニヨリ審査シ造石稅免除ノ手續ヲナシ申報スヘシ

第十二條 免許鑑札記載方ハ左式ニ倣フヘシ

間稅分署割印

(甲種又ハ乙種) 酒造場

第 號 國郡町村番地

酒類製造營業免許鑑札

國郡町村番地

何 某

第十三條 引續免許ヲ請フモノアルキハ其鑑札ノ裏面ニ該期ノ免許證印ヲ捺シ之ヲ付與スヘシ但裏面餘白盡キタルキハ更ニ新鑑札ヲ付與スヘシ

○長野縣告示第八十五號

明治二十三年九月長野縣令第五十一號酒造營業人心得書第二十五條ノ願屆書中左記ノ分ハ口頭又ハ郵便端書ヲ以テスルモ苦シカラス

明治二十三年九月二十日

長野縣知事 内海 忠勝

一 器械開封願

一 配(膠)検査願

一 燒酎蒸溜元粕検査願

一 燒酎検査願

一 古酒(或ハ買入)粕漉屆

○達第九五號

酒造營業人明細簿別紙様式ニヨリ之ヲ調製スヘシ

但用紙ハ追テ配付ス

收稅部出張所

明治二十三年十月十三日

長野縣收稅長 久住 秋策

(様式ヲ略ス)

○内示間第二號

二十四年九月訓令第百十九號酒造稅則取扱手續中第八條删除セラレ候ニ付テハ將來ノ取扱左ノ通り心得ヘシ

一 保證書ハ一年期毎ニ差出サセ納稅ノ義務終了ノ後返付スルモノトス

二 前年期ニ於テ差出シアル保證物件ハ尙翌年期ニ於テ二番保證物件トシテ相保セシムルコトヲ得

明治二十五年九月二十三日

間稅署長

長野縣收稅長 荒木 利定

醬麴稅

○縣令第四十二號

シノ部 醬麴稅

蓄麴製造營業人心得書別冊之通相定ム

明治二十二年五月九日

長野縣知事 木梨精一郎

蓄麴製造營業人心得書

第一條 蓄麴製造營業ヲ爲ス者ハ蓄麴營業稅則ヲ遵守シ尙左ノ各條ニ從フヘシ

第二條 蓄麴製造營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ倣所轄郡役所ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
但製造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トス

第三條 稅則第八條ニ據リ戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣調製スヘシ

「免許鑑札番號

第何號

蓄麴 賣捌 所

長野縣郡村番地

氏名

經手人

豎曲尺三尺

第四條 免許ヲ受タル者稅則第四條ノ届出ハ所轄檢稅員派出所ニ差出スヘシ但最初届出ノ後増減
スル時ハ其都度届出ツヘシ

第五條 稅則第五條ニ據リ調製スヘキ帳簿ハ第二號書式ニ倣記載シ置翌年十月中所轄檢稅員派出
所ニ差出檢査ヲ受クヘシ但此帳簿ハ營業中保存スヘシ

第六條 製造ノ蓄麴若シ非常ノ災害ニ罹ルカ又ハ腐敗等ニテ販賣難爲場合ニ於テハ其時々所轄檢
稅員派出所ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第七條 稅則第六條ニ據リ願出ルトキハ第三號書式ニ倣フヘシ其賣買讓與甲乙管應ニ交渉スル
キハ賣渡讓渡人製造場所轄ノ管應ニ届出添翰ヲ受買受讓受人製造場所轄ノ管應ニ其書換鑑札ノ
下付ヲ願出ツヘシ

第八條 稅則第七條ノ事故又ハ製造場轉換ノ爲メ免許鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ要スルトキハ第四號
書式ニ倣願出ツヘシ但甲乙管應ノ所轄ニ交渉スルトキハ前條ノ手續ニ據ルヘシ

第九條 免許鑑札ハ其年一期有効ノモノニ付引續翌期ノ營業ヲ爲サントスル者ハ九月三十日迄ニ
第一號書式ニ準シ願出鑑札ノ裏面ニ免許ノ證印ヲ受クヘシ

第十條 廢業セントスル者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納スヘシ

第十一條 營業期限中他行又ハ事故アリテ代理人ヲ置營業上ノ事務ヲ處辨セシムルトキハ其代理
人ノ屬籍氏名ヲ所轄檢稅員派出所ニ届出ツヘシ

第十二條 檢査ノ節ハ製造ニ關スル建物及諸帳簿ハ勿論時機ニヨリ其他ノ場所ト雖モ點檢スル
アルヘシ但此場合ニ於テハ營業人若クハ代理人ニ於テ先導スヘシ

第一號書式

蓄麴營業免許願

郡村番地

製造場

一製造見込石數何程
右明治何年度替麴製造營業仕度候間免許鑑札御下付相成度此段相願候也

郡村番地
氏名印

年月日

郡長氏名宛

(町村長ノ與書ヲ要ス)

第二號書式

替麴仕込帳

何月何日仕込

一蒸米何程

一糶米何程

一水何程

此替麴何程

替麴賣上帳

何月何日

一何程

一全

計何程

何村
氏名へ賣渡
全
何月中販賣高

第三號書式

替麴營業免許鑑札書換願

右ハ第何號替麴營業免許鑑札今般示談ノ上賣渡(讓渡)致候間鑑札御書換相成度鑑札相添此段相願候也

年月日

郡村番地
賣渡(讓渡)主氏名印
買受(讓受)主氏名印
右
(以下第一號書式ニ準スヘシ)

第四號書式

替麴免許鑑札再渡願

郡村番地

製造場

右ハ第何號替麴免許鑑札豫テ御渡相成居候處何々(事故詳細記載スヘシ)ニテ紛失(燒失)候ニ付更ニ鑑札御下付相成度此段相願候也

(以下第一號書式ニ準スヘシ)

○訓令第百七十三號

郡役所

醬麴營業免許取扱心得書別冊之通相定ム

明治二十二年二月九日

長野縣知事 木梨 精一郎

醬麴營業免許取扱心得書

第一條 醬麴營業免許鑑札用紙ハ豫メ其員數ヲ見積リ郡長ヨリ收稅長ニ請求スヘシ

第二條 醬麴營業ヲ願出ツル者アルトキハ第一號書式ニ倣鑑札下付スヘシ

第三條 鑑札書換若シハ再渡ヲ爲シ又ハ廢業ヲ届出ツル者アルトキハ臺帳ニ其事由ヲ記入シ主任

郡書記之ニ檢印スヘシ

第四條 營業人心得第九條ニ據リ引續免許ヲ請フ者アルトキハ最初下付シタル鑑札ノ裏面ヘ其期

免許ノ證印ヲ捺シ之ヲ下付スヘシ但鑑札裏面ノ餘白盡タルトキハ更ニ新鑑札ヲ下付スヘシ

第五條 前條繼續免許ノ證印ハ豫テ渡シアルモノヲ用フヘシ

第六條 新規營業又ハ廢業者アルトキハ第二號書式ニ倣報告書ヲ調製シ其區檢稅員派出所ヘ回送スヘシ

第七條 廢業者免許鑑札ヲ返納スルトキハ不取締無之様消印スヘシ

第八條 鑑札ノ受拂ハ第三號書式ニ倣毎會計年度ニ從ヒ計算表ヲ調製シ四月十日限收稅長ニ送付スヘシ

(第一號書式)

主稅官ノ長	
第何號 製造場 國郡町村番地	醬麴製造營業免許鑑札 年月日 長野縣國郡町村番地 何ノ誰 免許ノ年月日
地方管廳ノ押切印	

(第二號書式)
明治何年度舊麴營業人創廢報告

創ノ部

許可年月日	鑑札番號	事由	住	所	氏名
		新規			
		繼續			
廢業月日	鑑札番號	事由	住	所	氏名

右之通候也

年月日

收稅長氏名宛

郡長氏名印

(第三號書式)

明治何年度舊麴製造免許鑑札受拂計算表

件名 鑑札枚數 人員

受	越	取	新	再	拂	差	外	計
	高	計						
受	取	計	規	換	引	換	納	計
高	高	計	規	換	引	換	納	計

右之通候也

年月日

收稅長氏名宛

郡長氏名印

シノ部 舊麴稅

醬油稅

○縣令第七十四號

醬油製造營業人心得書別冊之通改定シ本年九月一日ヨリ施行ス

明治二十一年八月二十日

長野縣知事 木梨精一郎

第一條 醬油製造營業人心得書

則ヲ遵守シ仍ホ左ノ各條ニ從フヘシ

第二條 醬油製造營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ倣所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ツヘシ但稅則第一條但書ニ該當スルモノハ第二號書式ニ倣本條ノ願ト同時ニ届出ツヘシ

第三條 施行細則第三條ニ據リ届出ヲ爲ストキハ第三號書式ニ倣差出スヘシ

第四條 醬油製造人ハ製造場一ヶ所毎ニ左ノ雜形ニ倣標札ヲ調製シ醬油ハ其年查定ヲ受クヘキ見込ノ石數溜ハ製成見込ノ石數ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

〔宛許鑑札番號〕

番號
溜醬油何石
郡町番地
氏名
又ハ何會社取頭名

豎三尺

八寸

氏名

第五條 施行細則第四條ニ據リ届出ヲ爲ストキハ第四號書式ニ倣フヘシ

第六條 施行細則第五條ニ據リ届出ヲ爲ストキハ第五號書式ニ倣フヘシ但増減變換ノ場合ハ其時々々本條ニ準シ届出ツヘシ

第七條 施行細則第八條ニ據リ容器ノ検査ヲ受ントスルトキハ第六號書式ニ倣申出ツヘシ但修繕ヲ加ヘタルトキモ本條ニ準スヘシ

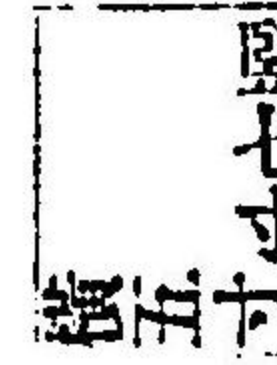
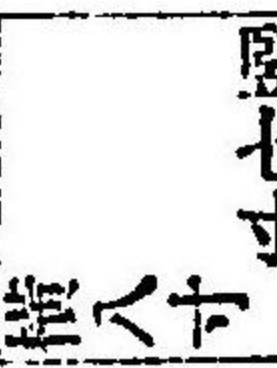
第八條 桶甕類ノ番號ハ製造場一ヶ所毎ニ起號シ其順次ヲ定ムヘシ尤其他ノ諸器械ハ番號ヲ附スルニ及ハスト雖モ烙印ヲ捺シ得ラルヘキモノハ之ニ烙印ヲ受クヘシ

第九條 粕桶水桶等ノ類ニシテ醬油ヲ容レサルモノハ丈量ニ及ハスト雖モ桶甕類ノ順ヲ逐番號ヲ記載シ之ニ烙印ヲ請フヘシ

第十條 桶甕類ノ石數等ヲ記載スヘキ木札ハ左ノ雜形ニ倣之ヲ調製シ桶甕類ノ前面ニ付シ置クヘシ但木札ノ寸法ハ桶甕類ノ大小ニ從伸縮スルモ妨ナシ

桶ニ付スヘキ木札雜形

豎七寸



第十一條 桶甕類ハ調査簿甲乙二帳ヲ製シ甲帳ハ管廳ニ備乙帳ハ營業人ニ下付シ置クヲ以テ増減變換ノ都度之ニ加除ヲ請ヒ調印スヘシ

第十二條 調査簿ノ桶甕類及諸器械ヲ賣買讓與貸借又ハ返却スルトキ桶甕類ハ其番號他ノ諸器械ハ品目員數等ヲ記載シ雙方連署ノ書面ヲ以テ其旨申出番號及帳簿等ノ訂正ヲ受タル後之ヲ授受

シノ部 醬油稅

五百七

スヘシ但廢業スルモノハ其時々届出消印ヲ請フヘシト雖モ再營業ノ目的アルモノハ烙印ノ保存ヲ願出ツルコトヲ得

第十三條 醬油諸味及溜諸味等仕込ノトキハ第七號書式ニ倣其時々届出ツヘシ

第十四條 諸味ノ仕込ヲ了シタルモノハ左ノ様式ニ倣木札ヲ調製シ年月日仕込番號等ヲ記入シ桶側面ニ付シ置クヘシ

桶第何號
明治何年
第何號諸味
何月何日仕込

寸法適宜

第十五條 稅則第五條ニ據リ造石數ノ査定ヲ受ントスルトキハ第八號書式ニ倣フヘシ

第十六條 檢稅員ヨリ付與シタル檢票ハ凡テ其容器面ニ貼付シ入石拂切ニ至ラサル間ハ之ヲ取除クヘカラス桶ノ入換等ヲ爲ストキハ檢票モ共ニ移付スヘシ

第十七條 施行細則第七條第十六條ノ帳簿ハ左記ノ廉々遺漏ナク記入シ月計通計ヲ付シ檢査ノ際檢印ヲ受クヘシ

一 醬油製造原品買入帳

此帳簿ニハ原品ノ種類ヲ區別シ買入ノ都度代價石數及月日買入先ノ住所氏名等詳細記入スルモノトス但自作品小作品アルトキハ其旨詳記スヘシ

二 醬油麴製造帳

此帳簿ニハ豆麥ノ石數入室出ノ月日及成麴石數並使用區分等ヲ詳記スヘシ

三 醬油仕込帳

此帳簿ニハ一仕込分ノ麥豆鹽汲水等ノ石數仕込順號仕込年月日並仕込桶號等ヲ詳記スヘシ

四 醬油賣揚帳

此帳簿ニハ卸賣小賣トモ遺漏ナク其石數代價等日計ヲ記入スルモノトス番水等ヲ混和スルトキハ其水量ヲ記シ置クヘシ但他ヨリ買入タル醬油ノ賣揚ハ口譯ヲナシ記入スヘシ

五 醬油買入帳

此帳簿ニハ他ヨリ買入タル醬油石數年月日買入先ノ住所氏名ヲ詳記スヘシ

第十八條 醬油製造人ハ前條帳簿ノ外醬油製成帳ヲ調製シ石數査定ヲ受タル諸味石數ハ勿論其製成醬油石數及粕ノ斤量等摺リ上タル都度精密記載シ月計通計ヲ付シ檢査ノ際檢印ヲ受クヘシ

第十九條 稅則第六條ニ據リ造石數ノ査定又ハ但書ニ據リ檢査ヲ受ントスル者ハ其旨書面ヲ以テ所轄檢稅員派出所ニ申出ツヘシ但賣渡ニ係ルモノハ雙方連署スヘシ

第二十條 施行細則第十條ノ届書ハ第九號書式ニ倣フヘシ但本條ノ届出ヲナストキハ其旨同時ニ所轄檢稅員派出所ニ申出ツヘシ

第二十一條 施行細則第十一條ニ據リ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フトキハ第十號書式ニ倣フヘシ

第二十二條 施行細則第十二條ニ據リ添書ヲ願受ントスルトキハ第十一號書式ニ倣フヘシ

第二十三條 施行細則第六條ニ據リ代人ヲ置クトキハ第十二號書式ニ倣委任狀寫ヲ添所轄檢稅員派出所ニ届出ツヘシ但後見人ニシテ事故アリ代人ヲ置クトキモ亦同シ

第二十四條

附則

二十二年二月五日
第八號ヲ以テ本條削除

第二十五條 從來ノ醬油製造人ニシテ本年九月ヨリ十二月ニ至ル四ヶ月間ニ仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數及其製造方法ハ第五號書式ニ準シ九月十日迄ニ所轄檢稅員派出所ニ届出ツヘシ

第二十六條 從來ノ醬油製造人ハ本年九月一日ニ持越タル現在諸味ノ仕込番號及製成醬油ノ石數ヲ取調同月十日迄ニ所轄檢稅員派出所ニ届出ツヘシ

第一號書式(正副二通)

醬油製造營業免許願

右製造場ニ於テ醬油製造營業仕度候間免許鑑札御下付相成度繪圖面相添此段願上候也

郡村番地
製 造 場

郡村番地(寄留)

(原籍國郡村番地)

願人 氏

名印

(郡村番地某)

(後見人)氏

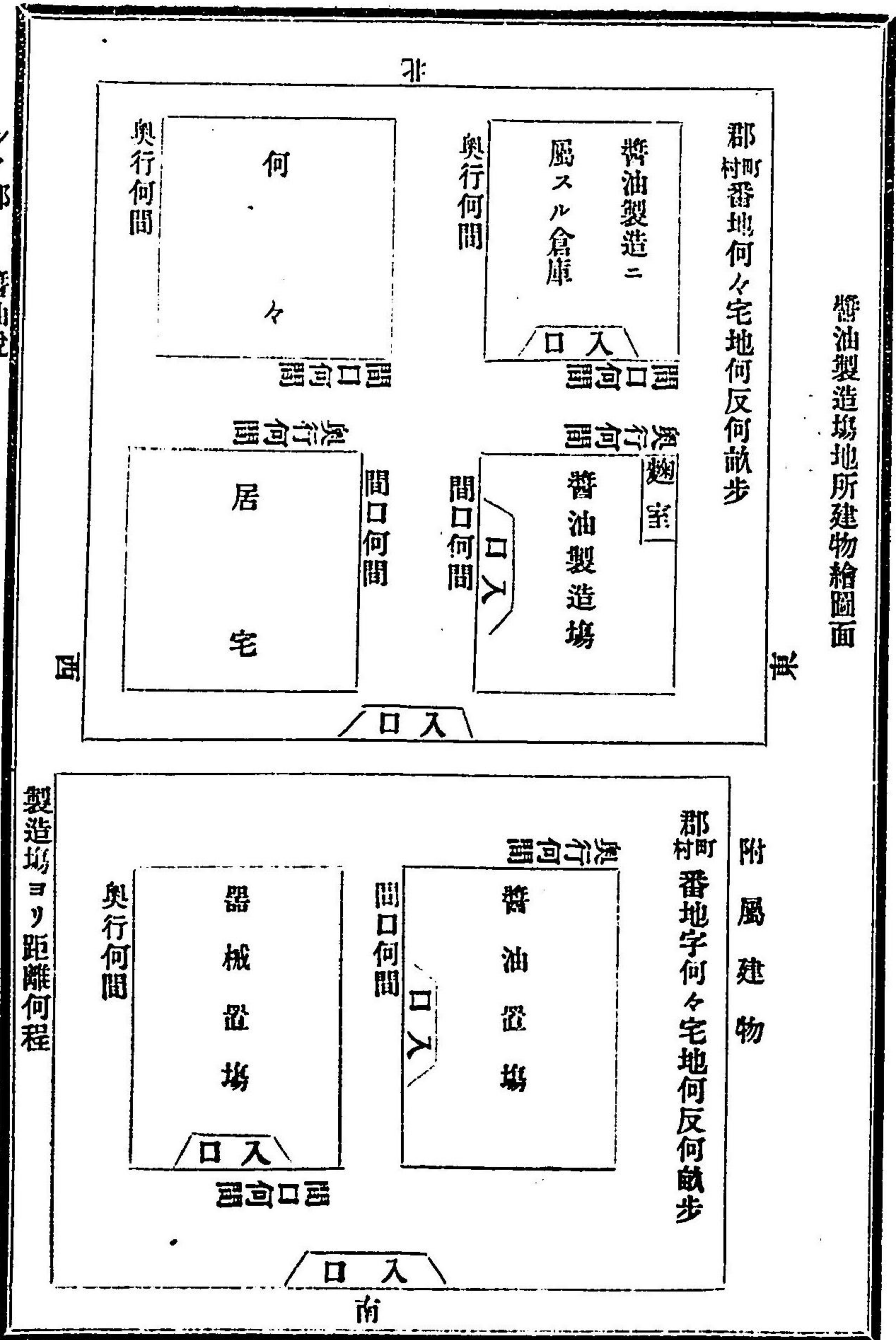
名印

年 月 日

長野縣知事氏名殿

戸長ノ奥書ヲ要ス

醬油製造場地所建物繪圖面



シノ部 醬油稅

醬油製造場一區域内建物

- 一 醬油製造場 間口何間 此坪數何坪
- 但 二階何間 何坪 廻室何間 何坪 掛出何間 何坪
- 一 倉庫 間口何間 此坪數何坪
- 但 賣場何間 何坪
- 一 何々 間口何間 此坪數何坪
- 但 何々 何間 何坪
- 一 居室 間口何間 此坪數何坪
- 但 何々 何間 何坪
- 一 倉庫 間口何間 此坪數何坪
- 但 何々 何間 何坪
- (以下之ニ倣ヒ列記スヘシ)
- 第何番地 醬油製造場ニ屬スル區域外建物
- 一 倉庫 間口何間 此坪數何坪
- 但 二階何間 何坪
- 一 何々 間口何間 何坪 此坪數何坪
- 但 何々 何間 何坪
- 右之通相違無之候也

第二號書式 年 月 日

郡町番地

氏 名 印

後見人届

郡町番地 醬油製造營業人 氏 名

右後見人 生年月

郡町番地 氏 名

右親屬 氏 名 印

郡町番地 氏 名 印

郡町番地 氏 名 印

年 月 日

右(營業人)氏名義何々事故(事故詳細記)ニヨリ拙者ニ於テ(營業上又ハ何々)一切ノ事件後見致候就
テハ御規則ノ趣旨確守可致候仍テ該親屬連署ヲ以テ此段御届申上候也

長野縣知事氏名殿

戸長ノ與書ヲ要ス

シノ部 醬油稅

第三號書式

(親屬ハ二名以上ノ連署ヲ要ス)

醬油製造ニ屬スル諸器械調書

郡村番地

醬油製造場

免許鑑札(番號)

一桶 何號ヨリ

内欠號何個

第何號

何個

第何號

(借入レタルモノハ其旨
記載スヘシ以下做之)

第何號

一甕 何號ヨリ

一槽 何號ヨリ

一男柱 何號ヨリ

一層粹

一締メ木

一掛ケ袋

一垂レ桶

一釜

一石臼

一麴板

一桃桶

何個

何個

何個

何個

何個

何個

何個

何個

何個

何個

何個

- 一試シ桶 何個
- 一半切 何個
- 一擔桶 何個
- 一柄抄但何升何合入 何本
- 一櫃 何本
- 一何々 何個
- 一何々 何個
- 計 何個

右ハ明治何年何月何日醬油製造御許可相成候ニ付即チ醬油製造諸器械現今所持ノ分前記ノ通相違無之候ニ付此段御届申上候也

郡村番地

醬油製造營業人

氏

名印

年 月 日

第何區檢稅員何派出所御中

第四號書式

醬油製造用建物諸器械増(減)届

一倉庫(又ハ何々)

(區域外ナルキハ其旨記載スヘシ)

一桶

壹棟

但間口何間
奥行何間

何個

シノ部 醬油稅

一何々 何箇
右ハ今般營業上ノ都合ニ依リ前書ノ建物(器械)増(減)仕候間御烙印相成度此段御届申上候也

(以下第三號書式ニ同シ)

第五號書式(甲)

醬油諸味仕込並方法届

郡町番地
醬油製造場

免許鑑札(番號)

一醬油(溜)諸味何百何十何石何斗

自第何號仕込
至第何號仕込 幾仕込

内

何十何石何斗

自第何號仕込
至第何號仕込 幾仕込

此一ト仕込方法

一豆

七石

一麥

七石

一鹽

七石

一汲水

十四石

計二十八石

何十何石何斗

自第何號仕込
至第何號仕込 幾仕込

此一ト仕込方法

一豆

何石

一麥 何石
一鹽 何石
一汲水 何石
計何石
(仕込方法ノ異ナルモノハ右ニ倣ヒ列記スヘシ)
右ハ常明治何年中醬油(溜)諸味仕込見込並仕込方法前記之通ニ有之候以後増減又ハ變換候節ハ其時々御届可仕候也

(以下第三號書式ニ同シ)

第五號書式(乙)

醬油査定ヲ受クヘキ見込石數並製造方法届

郡町番地
醬油製造場

免許鑑札(番號)

一醬油諸味何千何百何十何石何斗

幾仕込分

内

何百何十何石何斗

全明治何年自第何號
全明治何年至第何號
幾仕込

此一ト仕込方法

一豆

七石

シノ部 醬油稅

一麥 七石
 一鹽 七石
 一汲水 十四石

計二十八石

何百何十何石何斗

此一ト仕込方法

一豆 何石

一麥 何石

一鹽 何石

一汲水 何石

計何石

(仕込方法ノ異ナルモノハ右ニ倣ヒ列記スヘシ)

此製成醬油何千何百何十何石何斗

此一ト仕込製成方法

一番 何石

一諸味 何石

一醬油 何斗

一味淋 何斗

一何々 何程

明治何年自第何號
全 年 至 第何號
幾仕込

此製成醬油何石何斗

二番 何斗

一諸味 何貫匁

一粕 何貫匁

一鹽水 何石

一何々 何程

此製成醬油何石何斗

三番 何貫匁

一粕 何貫匁

一滓 何斗

一番水 何石

一何々 何程

此製成醬油何石何斗

一溜何十何石何斗

此製成方法

釜ヲ立テ汲取リ又ハ香口ヨリ引取リ又ハ器械ニテ搾取ル等製成ニ係ル事項ヲ記スヘシ

此諸味何十何石何斗

此一ト仕込方法

一豆 何石

明治何年自第何號
全 年 至 第何號
幾仕込

シノ部 醬油稅

一鹽 何石
一水 何石
一何々 何石
計何石

右ハ當明治何年中醬油査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法前記ノ通ニ有之候以後増減又ハ變換候節ハ其時々御届可仕候也

(以下第三號書式ニ同シ)

第六號書式

醬油製造用容器檢査願

郡町番地
醬油製造場

免許鑑札(番號)

第何號

一桶

但新調(買入)(讓受)(修繕)

口徑 何尺何寸何分

胴徑 何尺何寸何分

底徑 何尺何寸何分

深サ 何尺何寸何分

此入石數何程

第何號

一甕

但書前ニ同シ

此入石數何程 但水量試シ

右容量御檢査相成度此段願上候也

(以下第三號書式ニ同シ)

第七號書式

醬油(溜)諸味仕込届

郡町番地

醬油製造場

免許鑑札(番號)

一本年第何號仕込醬油諸味

一本年第何號仕込溜諸味

右ハ來ル何月何日仕込仕候間此段御届申上候也

(以下第三號書式ニ同シ)

第八號書式

醬油諸味(製成溜)石數査定願

郡町番地

醬油製造場

免許鑑札(番號)

何年第何號仕込

一醬油諸味何石何斗

シノ部 醬油稅

何年第何號仕込

一製成溜何石何斗

右ハ何月何日(ヨリ推リ着手仕度)候間石數御査定相成度此段願上候也

(以下第三號書式ニ同シ)

第九號書式

醬油製造廢業届

郡町番地

醬油製造場

第何號

一免許鑑札 一枚

右ハ今般都合ニ據リ廢業仕候間免許鑑札還納此段御届申上候也

(以下第一號書式ニ同シ)

第十號書式

醬油製造營業鑑札書換(再渡)願

郡町番地

醬油製造場

第何號

一免許鑑札 一枚

右ハ何々ノ事故ニ據リ失却毀損又ハ代替改名仕候ニ付御書換(更ニ御下付)相成度免許鑑札相添(失ハ除ク)此段願上候也

(以下第一號書式ニ同シ)

第十一號書式

醬油製造場移轉ニ付添書願

郡町番地

醬油製造場

第何號

一免許鑑札 一枚

右製造場今般都合ニ依リ何府縣郡町番地へ移轉ノ上繼續營業仕度候間御添書被成下度此段願上候也

(以下第一號書式ニ同シ)

第十二號書式

代理人届

郡町番地

醬油製造營業人

某箇今般何々(事故詳記)ニ付某ヲ以テ代人ト爲シ營業上諸般ノ事ヲ爲取扱候間別紙委任狀寫相添連署ヲ以テ此段御届申上候也

氏 名

右

年 月 日

氏 名

代理人 氏 名

印

第何區檢稅員何派出所

御 中

シノ部 醬油稅

自家用料酒稅

○縣令第十三號

明治十九年八月縣令甲第三號自家用料酒類製造人心得書別冊之通改正ス

明治二十二年三月五日

長野縣知事 木梨精一郎

第一條 自家用料酒類製造人心得書

第一條 自家用料酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則附則及明治十九年大藏省令第二十七號ノ旨ヲ遵守シ尙左ノ各條ニ從フヘシ

第二條 自家用料酒類ヲ製造セントスル者ハ第一號書式ニ倣所轄郡役所ニ届出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 省令第二項ノ場合ニ於テハ所轄檢稅員派出所ニ届出ツヘシ

第四條 省令第三項ニ據リ掲出スヘキ標札ハ左ノ雜形ニ倣フヘシ但省令第二項ノ場合ニ於テハ其時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更正スヘシ

竪 二 尺

第何號 自家用料酒何斗何升何合 郡村番地 氏名

廿四年十月廿一日縣令第十四號削除

第五條

第六條 酒類ノ原質品トシテ買入タル酒粕及麴米ハ第三號書式ニ倣帳簿ヲ製シ置其數量及買入先ノ住所氏名ヲ詳記スヘシ

第七條 省令第四項ノ場合ニ於テハ第四號書式ニ倣届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許鑑札ハ一期有効ノモノニ付後期引繼製造セントスルトキハ第一號書式ニ準シ届出鑑札ノ裏面ニ免許ノ證印ヲ受クヘシ但製造ヲ廢止スルカ又ハ免許後酒造稅則第四條ノ營業ヲ開始シ及全條末項ノ事故ヲ生シタルトキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第一號書式

自家用料酒類製造届

郡村番地
何營業

氏名

一濁酒 何程

右明治何年度自家用料酒類製造仕度候間免許鑑札御下付相成度(免許鑑札相添)此段御届仕候也

年月日

郡長氏名宛

戸長ノ奥書ヲ要ス

第二號書式

第五條削除ニ付消滅

シノ部 自家用料酒稅

第三號書式

自家用料酒類製造原品買入帳

燒酎蒸溜用

月日

一酒粕

何程

郡町番地酒造人

氏名ヨリ買入

月日

一滓酒

何程

同上

同上

濁酒製造用

月日

一麴米

何程

郡町番地

氏名ヨリ買入

月日

一同

何程

同上

同上

第四號書式

自家用料酒類製造免許鑑札紛失(代替)届

郡町番地

何營業

氏名

右第何號自家用料酒類製造免許鑑札御下付相成居候處何々(本故詳細記)仕候間更ニ鑑札御下付相成度此段御届仕候也

(以下第一號書式ニ準スヘシ)

○クノ部

車 税

○縣令第十八號

明治十九年五月甲第七十五號布達諸車所有者心得書別冊之通り改定ス

明治二十一年二月十四日

長野縣知事 木梨精一郎

諸車所有者心得

第一項 諸車所有者ハ車税規則ヲ遵守シ左ノ各項ニ從フヘシ

第二項 車ヲ新調シタルモノハ第一號書式ニ倣ヒ戶長ノ奥印ヲ請ヒ所轄郡役所ニ届出テ檢印ヲ請クヘシ

第三項 税則第一則第四項第五項第七項第八項ハ左ノ區別ニ據ルヘシ

一 荷積車ハ荷臺全ク荷物ヲ積載スル場所ノ縱横相乘シ尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未滿ヲ以テ中小車大六トス以下

一人力車ハ乘臺ノ横巾内法曲尺二尺未滿ヲ以テ一人乗トシ右以上ヲ以テ二人乗トス

第四項 馬車一匹立ヲ二匹立ニ兼用スルモノハ豫テ其旨ヲ届出テ二匹立ノ檢印ヲ受クヘシ

第五項 荷積車ニシテ普通荷臺ノ外別ニ積載ノ場所ヲ架設シ其坪數ヲ増加シテ使用スルモノハ豫テ其旨ヲ届出テ本車ト共ニ檢印ヲ受クヘシ

但積荷ノ都合ニ依リ一時ノ架設ニ止ルモノハ此限リニアラス

第六項 馬車荷積馬車人力車牛車荷積車ノ各車中其車類ヲ變更シ若クハ其一類中ヲ改造シ馬車馬

ノ匹數人力車乘臺ノ横巾荷積車ノ坪數等ヲ増減シ税金ニ異動ヲ生シタルトキハ該期ヨリ其増差ニ係ル税金ヲ納ムヘシ

第七項 稅則第五則ノ外左ノ場合ニ供使スルモノハ免稅タルヘシ

一非常專用ノ事

一郵便物遞送ニ專用スル事ニシテ遞信省ノ指定ニ據リ構造スルモノ

一公立幼稚園所屬ノ車ニシテ育兒ノ用ニ供スルモノ

一避病院所屬ノ車ニシテ傳染病患者消毒藥品若クハ死體汚穢物ヲ運搬スルモノ

第八項 左ノ場合ニ係リタルトキハ第二號第三號書式ニ倣ヒ第二項ノ手續ニ依リ更ニ檢印ヲ受クヘシ

但車ニ修繕ヲ加ヘ檢印ノ箇所ヲ取換ヘタルキ其他檢印アル從前ノ箇所ヲ費用セサルモノハ之ヲ添附シ消印ヲ受クヘシ

一免稅車ヲ有稅車ニ有稅車ヲ免稅車ニ變換供使セントスルトキ

一車體ノ檢印ヲ磨滅毀損シタルトキ

一車類ヲ變換シタルトキ

一馬車馬ノ匹數ヲ増減シタルキ

一車ヲ改造シ税金ニ差異ヲ生シタルトキ

一車ニ修繕ヲ加ヘ檢印ノ箇所ヲ取換ヘタルトキ

第九項 車ヲ解撤シ又ハ亡失シタルトキハ第四號書式ニ倣ヒ届出ヲナスヘシ

但車ヲ解撤シタルトキハ其檢印アル箇所ヲ添付シ消印ヲ受クヘシ

第十項 改姓名代替又ハ同郡役所々轄内ニ轉居シタルトキハ第五號書式ニ倣ヒ届出ヲ爲スヘシ
第十一項 他郡役所々轄ノ地ニ轉居セントスルトキ又ハ他郡ヨリ轉居シタルトキハ第六號書式ニ倣ヒ各其郡役所ニ届出ヲ爲スヘシ

但他府縣へ轉居セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ轉居シタルモノモ之レニ準ス

第十二項 車ヲ賣拂ヒ若クハ讓渡シタルトキハ第七號書式ニ倣ヒ其買受人若クハ讓受人ト連署ノ上届出ヲ爲スヘシ

其買受人若クハ讓受人ト郡役所ノ所轄ヲ異ニスルトキハ連署ヲ以テ仍ホ其買受人若クハ讓受人ノ郡役所ニ届出ヲ爲スヘシ

第十三項 諸車類無届ニテ營業又ハ使用シタル者ハ其脫稅年間ニ係ル税金ヲ追徵セラルヘシ

(第一號)

御 届

一何車

何 輛

(有稅車ナレハ稅則第一則ニ據クル諸車ノ區別ニ從ヒ斯クノ如ク記載シ稅
車ナレハ(何車)トアルヲ(何々用車)ト用途ヲ明記スヘシ以下倣之)

右今般新調仕候間御檢印被成下度此段及御届候也

長野縣信濃國何郡何町何番地族籍

年 月 日

何

某印

何郡長氏名宛

前書届出之通相違無之依テ與印候也

何町戸長

クノ部 車 稅

(第二號) 年月日 何 某印

第何號(車ノ番號ヲ記スヘシ以下倣之) 御 届 何 輛

一何車 右從前何々用車(又ハ何々車)ニ有之候處今般前書ノ通變更(又ハ改造)使用仕候間更ニ御檢印被成

下度此段及御届候也 長野縣信濃國何郡何村何番地族籍 何 某印

前書届出之通相違無之依テ與印候也 何郡長氏名宛

(第三號) 年月日 何町戶長 何 某印

第何號 御 届 何 輛

一何車 右今般御檢印磨滅(又ハ毀損)(又ハ修繕ヲ加ヘ御檢印ノ箇所取換ヘ)候間更ニ御檢印被成下度此段及御届候也

長野縣信濃國何郡何村何番地族籍

年月日 何 某印

前書届出之通相違無之依テ與印候也

年月日 何町戶長 何 某印

(第四號) 御 届 何 輛

第何號 一何車 右今般解撤(又ハ亡失)候間此段及御届候也

年月日 長野縣信濃國何郡何村何番地族籍 何 某印

前書届出之通相違無之依テ與印候也

年月日 何郡長氏名宛 何町戶長 何 某印

(第五號) 御 届 何 輛

第何號

一何車

右改姓名(又ハ代替)(又ハ何郡何村何番地ニ轉居)仕候間此段及御届候也

長野縣信濃國何郡何村何番地族籍

年月日

何郡長氏名宛

前書届出之通相違無之依テ與印候也

何 輛

何 某印

何町戸長

何 某印

(第六號)

御 届

第何號

一何車

右今般何郡何村何番地ニ居住仕居候處今般何郡何村何番地(轉居仕)候間此段及御届候也

長野縣信濃國何郡何村何番地族籍

年月日

何郡長氏名宛

前書届出之通相違無之依テ與印候也

何 輛

何 某印

何町戸長

何 某印

(第七號)

御 届

第何號

一何車

右從來何某所有之處今般何某ニ賣拂(又ハ讓渡)(又ハ買受)(又ハ讓受)候間此段及御届候也

長野縣信濃國何郡何村何番地族籍

年月日

賣拂(又ハ讓渡人)何 某印

長野縣信濃國何郡何村何番地族籍 買受(又ハ讓受人)何 某印

何郡長氏名宛

前書届出之通相違無之依テ與印候也

何町戸長

何 某印

○乙第二十五號

郡 役 所
戸 長 役 場

諸車新調ノ都度檢印ヲ受ケタル後ハ移轉又ハ賣買
ヲ除クノ外 破解スルニ非ラサレハ檢印削除不相成筋ニ候處往

々使用セサルヲ以テ削除ヲ乞フ者有之哉ニ相聞候右ハ使用ノ有無ニ關セス檢印ハ削除スヘキ限リニ無之候條此旨相違候事

明治十九年二月十五日

長野縣令木梨精一郎代理

長野縣大書記官 鳥山 重信

○長野縣訓令第四十五號

間 稅 分 署

明治二十一年二月本縣訓令第五十號車稅規則取扱心得書別冊ノ通改定ス

明治二十五年三月二十九日

長野縣知事 淺田 徳則

車稅規則取扱心得書

第一條 車ノ檢印ハ左ノ烙印ヲ用ヒ車臺若クハ轆木ノ右側ニ烙印スヘシ

課 稅 車 烙印

長野縣

免 稅 車 烙印

免 稅

第二條 車ハ左ノ區別ニ從ヒ檢印ノ側ニ符號ヲ烙印スヘシ

一 馬車二匹立 二

一 人力車二人乘 一

一 馬車一匹立 一

一 人力車一人乘 一

一 荷積六七八八 大

一同中小 小

第三條 物品運搬ノ用ニ供使スル車ハ總テ稅則第一則第七項第八項ニ準シ其稅ヲ徵収スヘシ

第四條 稅則第五則ノ耕作一途用車トハ稅則第一則第三項第六項第七項第八項ニ該當シ若クハ第七項第八項ニ準スルモノニシテ農家ニ於テ農具種子肥料塵芥收穫物ヲ運搬スル自家所用ノ車ヲ云フ

第五條 耕作一途用車ト雖モ前第四條ニ掲クル物品ヲ販賣ノタメ運搬スルモノハ免稅ノ限リニアラス

第六條 耕作一途用車ノ外左ノ場合ニ供使スルモノハ其用途ヲ檢査シ免稅ノ取扱ヲナスヘシ

一 非常專用ノ車

一 郵便物遞送ニ專用スル車ニシテ遞信省ノ指定ニヨリ構造シタルモノ

一 公立幼稚園所屬ノ車ニシテ育兒ノ用ニ供スルモノ

一 避病院所屬ノ車ニシテ傳染病患者消毒品若クハ死體汚穢物ヲ運搬スルモノ

第七條 製造所若クハ鑛山借區内ノ如キ一部内ニ專用スルモノ又ハ祭典專用ノ山車ノ如キハ課稅ノ限リニアラス

第八條 普通荷臺ノ外別ニ積載ノ場所ヲ架設シ其坪數ヲ増加シテ使用スルモノハ其本車ト共ニ檢印ヲ烙印シ其増加ノ坪數ニツキ徵稅スヘシ

但積荷ノ都合ニヨリ一時ノ架設ニ止マルモノハ此限リニアラス

第九條 馬車荷積馬車人力車牛車荷積車ノ各類中其車類ヲ變更シ若クハ同類中馬車馬ノ匹數又ハ人力車乘臺ノ横巾(曲尺二尺未滿ヲ二尺)荷積車ノ坪數(曲尺十四坪未滿ヲ十四坪)ヲ増加シ稅金ニ増差ヲ生

クノ部 車 稅

五百三十七

シタルトキハ該期ヨリ増差ニ係ル金額ヲ徴收スヘシ

第十條 改氏名代替並ニ所轄内ノ轉居賣買讓受讓渡及再檢印解撤亡失等ノ届出アリタルトキハ直
チニ臺帳ヲ加除更正シ其事由ヲ記入シ置クヘシ

但事故アリ檢印アル箇所ヲ取換タルトキ又ハ解撤シタルトキハ前烙印ハ悉皆削除スヘシ

第十一條 甲乙兩官廳ニ交渉スル移轉賣買讓受讓渡ノ届出アリタルトキハ甲廳ハ直ニ該期納稅ノ

濟否等ヲモ乙廳ニ通牒シ乙廳ハ轉入若クハ買受讓受者ヨリノ届出ニ照シ臺帳ヲ整理シ其旨甲廳

ヘ回報シ甲廳ハ該回報ニ依リ臺帳ヲ削除スヘシ

乙廳ニ於テ若シ甲廳ヨリ通牒アルモ轉入若クハ買受讓受者ヨリ届出ナキトキハ其旨通達シ速ニ

届出ヲナサシメ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 他府縣ヨリ轉入若クハ買受讓受ニ係ル場合ニ於テハ先ノ檢印ヲ削除シ更ニ檢印ヲ烙記

スヘシ

第十三條 諸車類無届ニテ營業スルカ又ハ使用シタルモノハ其脫稅年間(時効ニ係リタル年間ヲ除ク)ニ係ル税金

ヲ追徴スヘシ

○指示間第五號

間 稅 分 署

本年三月本縣訓令第四十五號ヲ以テ車稅則取扱心得書改定相成候ニ付テハ船其他國稅營業者ニシテ
甲乙兩官廳ニ交渉スル轉入出ノ場合ニ於ケル取扱方モ右心得書第十一條ニ準據スヘシ

明治二十五年四月一日

間稅署長 長野縣收稅長 久住 秋策

○セノ部

船 稅

○乙第百十號

郡 役 所

船稅取扱心得書別冊之通相定候條此旨相達候事

長野縣令大野誠代理

明治十六年六月二十六日

長野縣大書記官 鳥 山 重 信

船稅取扱心得書

第一條

日本形積石五十石未滿舢舨船小廻船遊船ノ鑑札ハ第一號雛形之通調製下付スヘシ

第二條

前條諸船ノ間數ハ一間ニ止メ其以下端數ハ切捨ツヘシ

第三條

規則第七條但書鑑札釘付ノ箇所及ヒ同第十條免稅印烙記ノ箇所ハ該船ノ艙外部後面ニ之ヲ爲スヘシ

但烙印ハ從前雛形ノ如ク郡役所ニ於テ調製スヘシ

第四條

セノ部 船 稅

十七年四月
乙第五
日乙第
十六號
ヲ以
テ改
正
文ノ
通

解漁船等賣買讓與其他ニテ定繫場ヲ變換シ其新舊定繫場甲乙兩郡役所ニ交渉スルトキ乙郡役所ニ於テ其地ノ船籍ニ編入鑑札引換相渡シタル上ハ直ニ甲郡役所ニ報道スヘシ

第五條

前條ノ手續ニ依リ鑑札引換ノ節ハ更ニ該船ノ検査ヲ要セス舊鑑札ニ記載ノ間數等ニ據ルヘシ但其返納セシ舊鑑札ハ不取締無之様消印シ最初下付シタル郡役所ヘ返戻ニ及ハス

第六條

湖川等ニ碇泊又ハ繫キ置ク諸船ハ主任官隨時之ヲ検査シ其實況ヲ報告スヘシ

第七條

有稅諸船本年六月三十日現在高ハ號外書式ニ準シ來ル七月二十日限リ爾後ノ増減ハ第二號書式ニ據リ每一ヶ月分取束ヲ翌月五日限リ届出ツヘシ

第八條

船稅表及ヒ免稅船員數表ハ第三號第四號雜形ニ倣ヒ每半年分ツ、調製翌期七月五日限リ該地差立本廳ヘ送付スヘシ

第一號雜形

木札寸法曲尺堅五寸幅三寸厚サ及ヒ木品適宜

解漁船又ハ小廻船遊船ト記ス但日本形積石五十石未満ノ船ハ小廻船ト記スヘシ一間未満ノ船ハ一間未満ト記スヘシ

第何號

何國何郡何町

定繫場 何河(湖)岸

船梁ヨリ何間
船梁マテ

何 船

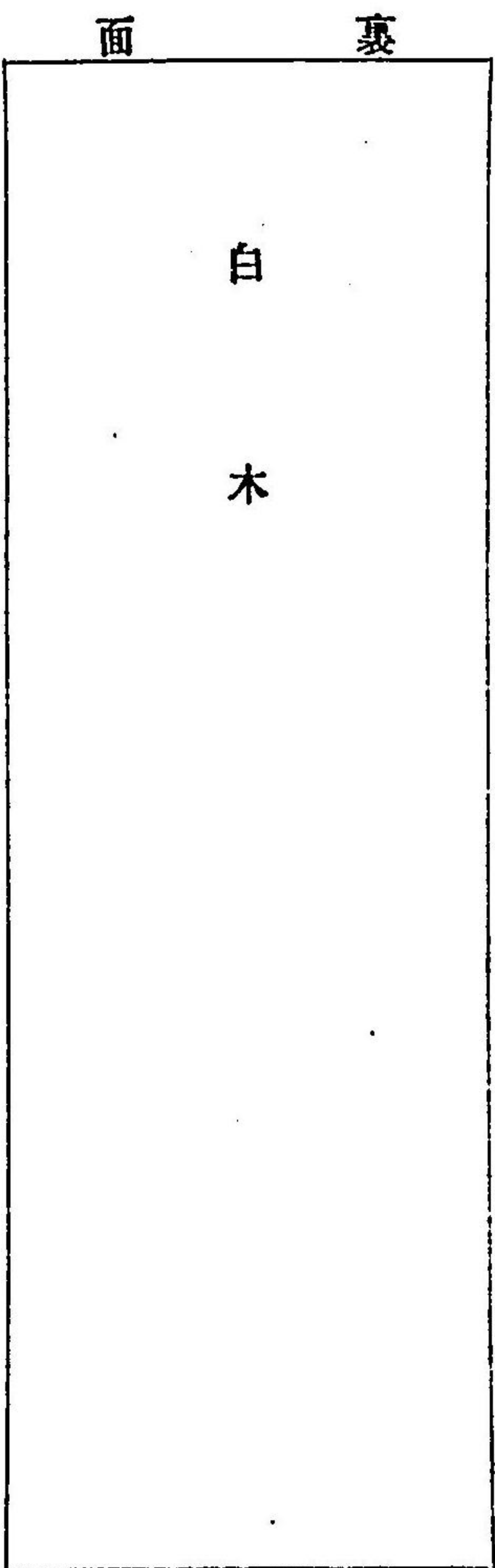
押切判

船鑑札

郡役所
烙名印

明治何年何月何日

何國何郡何町番地
何ノ 誰



○乙第百十一號

郡役所

本年四月第十號布告ヲ以テ船舶積量測度制定相成候ニ付テハ船稅徵收ノ積石數定方左ノ通心得ヘシ
 日本形積石五十石以上ノ船舶ハ測度更正濟ノ時ヨリ船鑑札面ヲ改正シ其積石數ニヨリ徵稅スヘシ
 シ又在來徵稅積石數ニ増減ヲ生シタルトキハ其次期ヨリ更正ニ係ル稅金ヲ徵收スヘシ
 右相違候事

明治十七年六月二十四日

長野縣令 大野 誠

○指示第一〇三號

小船ノ鑑札下付及烙印ニ關スル検査ハ自今間稅検査員ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ
 間稅分署

明治二十三年十一月二十六日

長野縣稅長 久住 秋策

○指示第一二八號

間稅分署

船舶所有者ニシテ當期納稅ノ後同期中ニ於テ用法ヲ變換シ稅金ニ増差ヲ生シタル場合例ハ日本形
 小船ヲ遊船トナシタル如キハ當期ニ於テ其増差ニ係ル稅金ヲ徵セス翌期分ヨリ徵稅スヘキヲニ省
 議決定候旨主稅局長ヨリ通牒有之候條此旨心得ヘシ

明治二十四年十月二十三日

間稅署長
長野縣稅長 久住 秋策

監獄署

○職第五十六號

押丁給左之通相定候條此旨相達候事

一等日給

金貳拾五錢

二等

全金貳拾貳錢

三等

全金貳拾錢

但病氣引歸省等ノ日ハ日給ヲ給セス

明治十五年七月

長野縣令 大野 誠

監獄本署

○職第三百二十二號

看守押丁懲罰細則別冊之通相定候條此旨相達候事

明治十六年十一月二日

看守押丁懲罰細則

長野縣令 大野 誠

監獄本署

夫レ看守懲罰ヲ行フハ本年內務省乙第十七號達ニ基キ巡查懲罰例ニ依リ又押丁懲罰ハ明治九年六月八日太政官達ニ依ルト雖モ其情狀百端ニシテ輕重モ亦均シカラス故ニ左ニ細目ヲ掲ケ以テ將來考課ノ便ニ供ス

總則

- 第一條 看守押丁職務ノ規則及心得ニ違背シ又ハ怠慢失誤アリタルハ本人ヨリ待罪書若クハ手續書ヲ初頭ニ記載スヘシ 差出サセ密告者アルハ其書類並ニ證據トナル可キ物件ヲ悉皆取纏メ監獄本署ニ於テ情狀ヲ審査シ其罰案ヲ擬シ具申スヘシ
- 第二條 監獄署及外役所ニ於テハ前條ノ書類物件ヲ名懸メ首座ノ書記若クハ看守長意見ヲ付シ監獄本署ニ申稟スヘシ
- 第三條 二犯以上併發スルハ各自ニ懲罰ヲ科ス可シト雖モ其金額看守ハ一月ノ俸給押丁ハ其日ノ日給高ニ超過スルコトヲ得ス
- 第四條 日給何分トアルハ其月一ヶ月ノ日給總額金ノ何分タルヘシ
- 第五條 罰金計算上金壹錢未滿ノ端數ヲ生スルハ之ヲ扣除スヘシ
- 第六條 情狀輕キ者ハ呵責ニ止ムルコトアルヘシ
- 第七條 所犯明證アルヲ強テ規避スル者ハ情ノ輕重ヲ問ハス免職ス
- 看守罰例
- 第八條 官物ヲ紛失遺失及ヒ誤毀シタル者ハ月俸百分ノ一ヨリ少ナカラス五ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 第九條 當番時間ニ違フ者ハ月俸百分ノ一ヨリ少ナカラス五ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 第十條 勤務中醉體ヲ露シ及睡眠シタル者ハ月俸百分ノ二ヨリ少ナカラス十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 第十一條 手帖ニ公務外ノ事ヲ記載シタル者ハ月俸百分ノ一ヨリ少ナカラス三ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

金ヲ科ス

- 第十二條 病氣引籠中猥リニ外出シタル者ハ月俸百分ノ一ヨリ少ナカラス十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 第十三條 歸省中正當ノ事由ナクシテ歸任日限ニ違フ者ハ一日毎ニ月俸百分ノ五ヨリ少カラス十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 但七日ニ至ル者ハ免職ス
- 第十四條 出張先ニ於テ正當ノ事由ナクシテ滞在シタル者ハ一日毎ニ月俸百分ノ十ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 第十五條 同僚若クハ押丁ノ犯則アルヲ默許シ又ハ許諾シタル者ハ月俸百分ノ一ヨリ少ナカラス五ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 第十六條 看守諸規則及心得ニ違背シタル者ハ月俸百分ノ二ヨリ少ナカラス二十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 第十七條 當番中受持場所ニハ護送ノ途中ニ於テ在監人ヲ逃走セシメタル者ハ月俸百分ノ十ヨリ少ナカラス五十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 但シ刑法ニ觸ル、者ハ此限ニアラス
- 第十八條 職務ヲ辱カシムルニ係ル者ハ免職スヘシト雖モ其情狀輕キ者ハ降級若クハ月俸百分ノ五ヨリ少ナカラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス
- 押丁罰例
- 第十九條 官物ヲ紛失遺失及誤毀シタル者ハ日給百分ノ一ヨリ少ナカラス五ヨリ多カラサル罰金

ヲ科ス

但時宜ニ依リ其代價ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第二十條 當番時間ニ違フ者ハ日給百分ノ一ヨリ少ナカラス三ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

第二十一條 勤務中酔體ヲ顯ハシ及ヒ睡眠シタル者ハ日給百分ノ一ヨリ少ナカラス八ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

第二十二條 手帖ニ公務外ノ事ヲ記載シタル者ハ日給百分ノ一ヨリ少ナカラス二ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

第二十三條 病氣引籠中猥リニ外出シタル者ハ日給百分ノ一ヨリ少ナカラス三ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

第二十四條 歸省中正當ノ事由ナクシテ歸任日限ニ違フ者ハ一日毎ニ日給百分ノ一ヨリ少ナカラス五ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

但七日ニ至ルモノハ免職ス

第二十五條 出張先ニ於テ正當ノ事由ナクシテ滞在シタル者ハ一日毎ニ日給百分ノ五ヨリ少ナカラス十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

第二十六條 同僚ノ犯則アルヲ默許シ又ハ許諾シタル者ハ日給百分ノ一ヨリ少ナカラス五ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

第二十七條 押丁諸規則及ヒ心得ニ違背シタル者ハ日給百分ノ一ヨリ少ナカラス十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

第二十八條 在監人護送ノ節控繩ニ怠リ爲ニ逃走セシメタル者ハ日給百分ノ十ヨリ少ナカラス三

十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

第二十九條 職務ヲ辱カシムルニ係ル者ハ免職スヘシト雖モ其情狀輕キ者ハ降級若クハ日給百分ノ三ヨリ少ナカラス五十ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス

○職第一百十二號

監獄本署

監獄支署

別紙之通在監人檢視規則相定候條此旨相達候事

長野縣令 木梨精一郎

在監人檢視規則

明治十八年九月一日

第一條 在監人死亡スレハ醫師ハ直チニ第一號書式ノ死亡届書若シ施療ヲ加ヘスシテ死亡スレハ

第二號書式ノ死體檢案届書ヲ作り之ヲ典獄ニ差出ス可シ

第二條 前條届出アリタル片ハ典獄ハ直チニ看守長醫師ヲ立會ハセ檢視ス可シ

第三條 凡死體ハ皮膚ノ變色腫起膨脹等頭髮ノ間ヨリ手足ノ末ニ至ル迄全體漏サス之ヲ検査シ若シ體中疑シキ廉アラハ醫師ニ質問ス可シ

第四條 典獄ハ死亡者關係人(看守押丁或ハ看護夫同房者等ヲ云フ)ヲ訊問シ看守押丁ハ第三號書式其他ノ關係人ハ第四號書式ノ陳述書ヲ差出サシム可シ

但看守押丁ノ陳述書ハ各別ニ差出サシムルト雖モ其他關係人陳述各同シキ者ハ一書ニ連署セシムルモ妨ケナシ

第五條 檢視畢レハ典獄ハ第五號書式ノ檢視書ヲ作り看守長醫師共ニ署名押印ス可シ

第六條 前數條典獄ナキ各署ニ於テハ首座ノ書記若クハ看守長ノ管掌タル可シ

第七條 護送途中死亡シタルキハ護送者ハ醫師ニ第六號書式ノ死去證書ヲ作ラシメ該地戸長共ニ連印シ書類物品ヲ併セ發出ノ署ニ遞送ス可シ

但遺骸ハ該地戸長ニ埋葬ヲ囑シ若シ引取人アルモノハ之ニ下付シ受取證書ヲ差出サシム可シ

〔用紙美濃十三行野紙〕

〔第一號書式〕

死亡届

未決者或ハ既決囚又ハ懲罰囚

何 某

何年何ヶ月

右ハ明治何年何月何日ヨリ何病ニ罹リ施療差加置候處漸次病勢増進シ或ハ明治何年何月何日ヨリ何病ニ罹リ施療中ノ處明治何年何月何日ヨリ何病ヲ併發シ漸次衰弱ニ陥リ終ニ何月何日午後何時死亡候ニ付此段及御届候也

明治何年何月何日

典獄何某殿

監獄醫師 何 某 印

〔用紙美濃十三行野紙〕

〔第二號書式〕

死體檢按届

未決者或ハ既決囚又ハ懲罰囚

何 某

何年何ヶ月

右ハ明治何年何月何日午後何時俄然病發シ危篤ノ趣通知ニ依リ直チニ出張候處已ニ死亡セシヲ以テ死體ヲ檢按スルニ死狀ハ何々死ニ至ルノ原因ハ何々ト檢按候條此段及御届候也

明治何年何月何日

典獄何某殿

監獄醫師 何 某 印

〔用紙美濃十三行野紙〕

〔第三號書式〕

何府縣何國何郡何村何番地華士族平民

或ハ某子弟又ハ同居現時未決在監人

何 某

何年何ヶ月

右ハ何月何日病死候始末御訊問之處本人ハ明治何年何月何日ヨリ疾病ニ罹リ爾後病監第何番房或ハ第何番病室又ハ第何番房ニ於テ醫療中何月何日午後何時看護夫既決囚某又ハ全房未既決囚某ヨリ病狀危篤之趣申出ツルニ因リ直チニ該房ニ臨ミタル處何々ノ模様ニシテ如何ニモ苦痛ノ體ニ罷在候ニ付其旨看守長某へ申告候處早速該房ニ出張又ハ醫師某共ニ出張之上尙ホ相當ノ治療有之候得共其効ナク終ニ何日午後何時死亡候義ニテ他ニ異狀無之候條此段及上申候也

監獄本署又ハ某監獄支署詰

明治何年何月何日

典獄何某殿

〔用紙美濃白紙〕

〔第四號書式〕

何府縣何國何郡何村何番地華士族平民
或ハ某子弟又ハ同居現時未既決在監人

何 某

何年何ヶ月

右ハ何月何日病死候始末御訊問之處本人ハ明治何年何月何日ヨリ疾病ニ罹リ病監第何番房或ハ第何番病室ニ於テ御治療中自分へ看護可致被仰付爾來息ヲス看護能_レ在候處或ハ(疾病ニ罹リ第何番房ニ於テ御治療中自分全房ニ有之候處)何月何日午_前何時頃ヨリ頰リニ腹痛シ或ハ吐瀉シ或ハ何々ニテ苦痛罷在候ニ付其旨看守所へ御訴申上候處直チニ看守又ハ押丁某御出張相成一應病狀御檢察之上仍ホ看護怠ラサル様御申聞ラレ尋テ看守長某醫師某御出張之上厚ク御治療有之候得共其効モ無之終ニ何日午_前何時死亡致候義ニテ他ニ異狀無御座候依テ此段及上申候也

看護夫或ハ全房者未既決囚

何 某 印

明治何年何月何日

典獄何某殿

〔用紙美濃十三行罫紙〕

〔第五號書式〕

何府縣何國何郡何村何番地華士族平民
或ハ某子弟又ハ同居現時未既決在監人

何 某

何年何ヶ月

右之者明治何年何月何日何々被告事件ニ付拘留又ハ收監中之處或ハ何裁判所ニ於テ何々ノ科ニ依リ刑名何年何月ノ處刑ヲ受ケ當監ニ服役中之處明治何年何月何日ヨリ何病ニ罹リ爾來病室ニ入_レ或ハ何病ニ罹リ治療差加置候處漸次病勢増進シ或ハ何月何日ヨリ何病ヲ併發シ漸次衰弱ニ陥リ終ニ何月何日午_前何時死亡候旨醫師某ヨリ届出候ニ付看守長某并醫師某爲立會檢視候處病監第何番房或ハ第何番病室又ハ第何番房ニ於テ(頭ヲ何々眼口開閉ノ有無支肢伸縮ノ摸摺總身皮膚ノ變色其他現狀ノ摸摺等漏サス記載ス可シ)相果居候其他異狀無之全ク病死セシモノト認候依テ關係書類相添檢視ノ始末立會人連署ヲ以テ此段及上申候也

監獄本署

醫師 何 某 印

同

看守長 何 某 印

同

典獄 何 某 印

〔典獄ナキ署ハ〕

某監獄支署

明治何年何月何日

長野縣令何某殿

書記何某印

〔用紙美濃野紙又ハ白紙〕
〔第六號書式〕

死去證書

何府縣何國何郡何村何番地華士族平民
或ハ某子弟又ハ同居現時未既決在監人

何 某

何年何ヶ月

右ハ明治何年何月何日午前何時發病或ハ俄然病發候趣通知ニ依リ直チニ出張診察候處病名ハ何
々病發ノ原因ハ何々依テ相當ノ治療差加置候處漸次病勢増進シ或ハ何病ヲ併發シ終ニ何日午
後何時死亡候條未タ施療ヲ加ヘスニテ已ニ死亡シテ出張候處已ニ死亡セシヲ以テ死體ヲ檢案スルニ死狀ハ
何々死ニ至ルノ原因ハ何々ト檢案候條此段及御届候也

郡町村番地

醫師何某印

同

戶長何某印

護送者

官名何某印

明治何年何月何日

長野縣令何某殿

○職第二百一十一號

監獄本署
監獄支署

明治十六年八月職第九十七號達看守押丁賜暇規則相廢シ更ニ別紙之通看守慰勞休暇規則相定候條
此旨相達候事

但皆勤日數ハ本年一月一日ヨリ超算スル議ト心得ヘシ

長野縣令 木梨精一郎

看守慰勞休暇規則

第一條 看守皆勤ノ者ニハ慰勞トシテ左ノ割合ニ據リ休暇ヲ附與ス

一ヶ年皆勤ノ者 三週間

半ヶ年皆勤ノ者 一週間

第二條 前條一ヶ年ト稱スルハ曆ニ從ヒ半ヶ年ト稱スルハ六ヶ月トス但一ヶ月ハ三十日トス

第三條 皆勤日數ヲ計算スルニ新拜命ノ者ハ其當日ヨリ起算シ關勤ノ者ハ其期限ヲ中斷シ更ニ出

勤ノ日ヨリ起算ス

第四條 非番父母祭日忌引職務上負傷者ノ關勤等ハ關勤日數ニ算入セス

第五條 休暇ハ數年ヲ通算シテ一時ニ附與スルコトヲ得ス

第六條 前數條ノ規則ニ依リ休暇ヲ附與スヘキ者アルハ典獄ヨリ其旨ヲ具シ許可ヲ請クヘシ

十八年職第百廿七號ヲ以テ第五條本文ノ通改

全上

カノ部 監獄

第七條 休暇ヲ附與シタルルキト雖モ公務ノ都合ニヨリ停止スルコアルヘシ
第八條 休暇中奉職ノ地ヲ離レ宿泊スルルキハ其旨奉職ノ署ヘ届ケ置クヘシ
休暇届

某儀

明治何年何月何日ヨリ何月何日迄何ケ年間皆勤仕候ニ付規則ノ通何月何日ヨリ何週間休暇仕候
間此段及御届候也

明治 年 月 日

看守 何

某

典獄 何某殿

(典獄不在ノ署ハ)

書記若クハ看守長何某殿

○職第二百二十二號

監獄本署
監獄支署

職第二百二十一號ヲ以テ看守慰勞休暇規則相違候處押丁モ該規則ニ準據休暇附與可致此旨相違候事
明治十八年九月三十日
長野縣令 木梨精一郎

○内記第三十號

警察本署

別紙ノ通郡役所戸長役場ヘ相違候條爲心得此旨相違候事

警察署
警察分署
監獄本署
監獄支署

明治十九年三月十五日

長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官 烏山重信

○乙第四十二號

郡役所
戸長役場

道路橋梁渡津ニ於テ警部巡查及看守長看守押丁等制服着用之節並ニ護送囚徒ハ自他府縣ノ差別ナ
ク都テ貸錢請求不相成候條該營業者ヘ示達スヘシ此旨相違候事

明治十九年三月十五日

長野縣令本梨精一郎代理
長野縣大書記官 烏山重信

○内記第八十六號

監獄本署
監獄支署

シタルモノ

第六條 自己ノ取扱上粗卒ニテ毀損ヲ生シ使用スヘカラサルニ至リタルモノ或ハ紛失シタルモノ等ハ相當ノ代價ヲ徴シ更ニ給與スルモノトス

○官房建第九號

監獄本署
監獄支署

監獄非常警備規則別冊之通相定ム

長野縣知事 木梨精一郎

明治十九年八月二十四日

監獄非常警備規則

第一章 總則

- 第一條 監獄ニ係ル變災ヲ稱シテ非常事變トス
- 第二條 此規則ニ於テ事變ト稱スルモノハ左ノ場合ヲ云フ
 - 一 囚徒反獄脱監越獄
 - 二 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケル者アリタル時
 - 三 水火風震ノ災
- 第三條 在監人ヲ他所ニ押送シ避災セシムルハ左ニ定ムル人員ヲ以テ押送警護スヘシ
 - 一 看守長ハ在監人三十人以上百人以下一名以上二百人毎ニ一名ヲ増ス
 - 二 看守ハ在監人二十人押丁ハ三十人毎ニ一名トス

本條在監人定員未滿ト雖モ看守長及ヒ看守押丁ハ便宜一名ヲ増員スルヲ得

第四條 在監人ヲ避災ノ爲メ他所ニ押送スルハ手鎖或ハ捕繩ヲ以テ二人以上便宜連絆シ未既決及男女囚ヲ別異スヘシ

但懲治人及別房留置者ハ戒具ヲ施スノ限ニアラス

第五條 密室監禁ニ係ル者ヲ避災セシムルハ一人毎ニ戒具ヲ施シ他囚トノ交通ヲ防クヘシ

第六條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ避災セシムルハ監獄則第十七條ノ覆面ヲ爲シ一人毎ニ戒具ヲ施シ嚴ニ他囚トノ交通ヲ防クヘシ

第七條 監獄本署及松本上田飯田監獄支署ハ此規則ニ依リ處分スヘシト雖モ其他人員少數ノ支署ニテ該規則ニ照準シ難キ者ハ本署ニ稟議シ便宜ノ處分スルヲ得

第八條 此規則ニ於テ典獄トアルハ副典獄正副典獄ナキ署ニ於テハ首座ノ書記若クハ看守長又看守長トハ看守副長ニ通ス

第二章 職務權限

第九條 事變ニ際シ典獄ハ此規則ニ依リ應變百般ノ指揮ヲ爲スヘシ

第十條 事變危急ニシテ時機止ヲ得サルニ於テハ典獄臨機ノ處分ヲ爲スヲ得

第十一條 典獄ハ本縣各課署長若クハ上席ノ者ト協議シ其他應援官吏ニ對シ應援ノ場所又ハ事件ヲ指示スルヲ得

第十二條 書記ハ内勤ノ者ヲ指揮シ書類物件ヲ取纏メ及搬出ノ處分ヲ爲シ又ハ倉庫物置場等警守スヘシ

若シ書記ナキ署ニ於テハ首座内勤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條 看守長ハ看守押丁ヲ指揮シ及監獄内外ヲ巡視一般ノ戒護ニ注目シ其他不慮ノ災害ヲ豫防スヘシ

第十四條 看守以下備吏及押丁等ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其職務ニ従事スヘシ

第三章 警備順序

第十五條 事變アリタルキハ典獄若シクハ當番看守長其形勢ヲ量リ押丁ヲ指揮シ警鐘ヲ以テ之ヲ報スヘシ

第十六條 左ノ場合ニ於テハ時間ヲ稍長ク一ツ打ニ警鐘ヲ鳴スヘシ

一 監獄周圍二丁以内ノ地ニ於テ發火シタル時

第十七條 左ノ場合ニ於テハ時間ヲ稍早ク二ツ打ニ警鐘ヲ鳴スヘシ

一 監獄接近ノ地ヨリ發火シタル時

二 囚徒二人以上同時ニ逃走シタル時

三 囚徒脱監越獄シタル時

第十八條 左ノ場合ニ於テハ警鐘ヲ亂打スヘシ

一 監獄内ヨリ發火シタル時

二 囚徒反獄ヲ謀リ説諭ヲ肯シセズ已ニ遂ケントシ又ハ遂ケタル時

三 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助クル者アリタル時

四 水風震ノ災ニシテ激甚ナル時

第十九條 看守及押丁ハ第十六條以下記載スル以外ノ事變ヲ認タルキハ呼子笛數聲ヲ鳴シ之ヲ報スヘシ

但相互ノ應援ヲ求ムル又本條ニ同シ

第二十條 典獄及當番看守長第十五條ノ處分終リタルキハ監獄内臨機指定ノ場所ニ位地ヲ占メ看守押丁ヲ指揮シ監門並監房工場其他緊要ノ場所ヲ警守セシメ又ハ押丁ヲシテ監房ノ鍵ヲ携帶セシムヘシ

第二十一條 事變ヲ聞キ出動シタル書記看守長以下看守押丁ハ前條典獄位地ノ前而ニ整列シ其他署員ハ詰所ニ屯集シ各自擔當ノ書類物件取纏等ノ準備ヲ爲スヘシ

第二十二條 監獄周圍二丁以内ノ地ニ於テ發火シタルキハ一面各囚ノ動搖ヲ制シ一面火勢ノ強弱ヲ觀察シ豫テ在監人ヲ避災セシムルノ準備ヲ爲スヘシ

第二十三條 火勢構外ニ迫リ其防キ得ヘカラサルモノト認タルキハ罹災ノ近キ監房若クハ工場ヨリ順次在監人ヲ構内臨時指定ノ場所ニ避ケシムヘシ

第二十四條 火勢已ニ延燒シテ構内ニ於テ避災セシムルヲ能ハサルト認タルキハ在監人ヲ臨時指定ノ地ニ押送スヘシ

第二十五條 監房接近ノ地ヨリ發火シタルキハ一面在監人ヲ臨時指定ノ地ニ避ケシメ一面火勢ノ消防ヲ爲スヘシ

第二十六條 監房内ヨリ急速ニ發火シ避災ノ爲メ在監人ヲ他所ニ押送スルノ途ナキキハ一時解放スヘシ

但要犯疑獄ニ係ル者ハ第六條ノ處分ヲ爲スヘシ

第二十七條 第二十二條以下記載スル發火ニ付テハ消防人又ハ消防係看守押丁ヲシテ火勢ノ消防ヲナサシムヘシ

第二十八條 監獄外ニ於テ囚徒ノ逃走ヲ認タルハ一面殘囚ヲ戒護シ一面追捕ヲ爲シ一面典獄又ハ看守長ニ急報スヘシ

若シ看守者人少ナルハ臨時ノ處分ヲ爲スヘシト雖モ其殘囚ノ戒護ハ怠ルヘカラス

第二十九條 囚徒脱監越獄シタルハ一面各囚ノ動搖ヲ制シ一面追捕ヲ爲スヘシ

第三十條 囚徒反獄ヲ謀リ未タ其事ヲ行ハサル以前覺知シタルハ典獄ハ看守長及看守押丁ヲ率ヒ温和ヲ主トシ專ラ鎮撫ニ盡力スハシ

若シ典獄不在ナルハ看守長ハ看守押丁ヲ指揮シ嚴ニ囚徒ヲ戒護シ典獄其他監獄近傍ニアル署員ニ順次急報シ典獄ノ指揮ヲ待ツヘシ

第三十一條 前條勢ヒ激烈ニシテ説諭ヲ肯セス獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ逃走セシトシタルハ押丁ヲジテ警鐘ヲ亂打セシメ而シテ臨機ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十二條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助クル者アリタル時ハ一面看守長ハ看守押丁ヲ指揮シ嚴ニ囚徒ヲ戒護シ一面ハ其暴行ヲ防衛シ又ハ追捕スヘシ

第三十三條 第二十八條以下記載スル囚徒逃走ニ付テハ其地ノ警察署ニ急報スヘシ

第三十四條 水風震ノ變災ニ際シ監獄ニ罹災ノ虞アルハ其形勢ヲ量リ在監人ヲ避災シ又ハ防禦セシムル等臨機ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十五條 前數條ニ記載スル在監人押送場所ハ成ルヘク官署寺院學校等ノ構内ニ於テ避災セシムヘシ

第四章 應援

第三十六條 應援官吏トハ左ニ記載シタルモノヲ云フ

一 屬

二 警察吏

三 郡吏及戶長

四 傭員

第三十七條 事變ニ際シ左ニ記載シタル者ノ外入門ヲ禁スヘシ

一 本縣及裁判所官吏

二 縣會議員

三 非常駐付人足

四 消防組

五 出入諸商工人及是等ノ者牽連シタル雇人

第三十八條 前條記載シタル者ト雖モ典獄ハ時機ニ依リ入門ヲ拒ムコトヲ得

○官房達第十號

廳中一般監獄署

別冊之通監獄非常警備規則制定ス此旨相心得ヘシ

明治十九年八月

長野縣知事 木梨精一郎

別冊ハ官房達第九號ニ全シ

○官房達第十五號

カノ部 監獄

看守以下旅費内則右之通相定メ九月十日ヨリ施行ス

明治十九年九月九日

知事

監獄本署
監獄支署

看守以下旅費内則

第一條 看守以下工業ノ爲メ外役囚取締トシテ片道五里未滿ノ地ニ出張シ及外役所滞在ノ節ハ一切ノ費用トシテ左項ノ日當ヲ支給スヘシ

第一項 滞在ハ看守雇等^{十月以下}等一日金拾八錢押丁以下ハ一日十六錢トス

第二項 出張ハ看守以下片道一里以上五里未滿總テ一日金七錢トス

第二條 前條ヲ除クノ外總テ内務省令第十一號警察官吏其他内國旅費概則ニ依ル

○達文第七十五號

第二部

監獄課
監獄

明治十八年^{四月十八日}職第四十四號看守押丁着服心得別冊之通改定ス

明治二十二年十二月十九日

長野縣知事 木梨精一郎

看守押丁服装心得

第一條 看守押丁其職務ニ服スルルハ定規ノ服装ヲ爲スヘシ

但出張ノ節草鞋ヲ用ユルハ此限ニ非ス

第二條 定規ノ服装ヲ爲シタルルハ左ノ各項ニ係ルモノヲ用ユヘカラス

- 一 色換リ又ハ異様ノ眼鏡
- 二 色換リ手袋
- 三 杖又ハ手傘
- 四 頸卷又ハ呼吸器

第三條 定規ノ服装ヲ爲シタルルハ左ニ記載シタル物品ヲ携帯ス可シ

- 一 手帖
- 二 呼子笛
- 三 捕繩

第四條 制服着用期限及帽日覆着用期限左ノ如シ

- 一 冬服 從 十月十五日 至 翌年五月三十一日
- 二 夏服 從 六月一日 至 十月十四日
- 一 帽日覆 從 十月十四日 至 十月十四日

第五條 制服ヲ着用シタルルハ必ス帶劔ス可シ

第六條 革帶ハ上衣ノ下ニ着ク可シ

第七條 外套着用シタルルハ革帶ヲ外部ニ顯ハスヘシ

カノ部 監獄

但降雨雪霰ノ節ハ外套ノ下ニ帯ヒ劔柄ヲ外部ニ顯ハス可シ
第八條 官署内ニ在テハ外套ヲ脱ス可シ

第九條 外套着用シタルキハ必ス襟ヲ折ル可シ

但外役出張ノ節ニ限リ防寒ノ爲メ又ハ日出前日没後ハ此限ニ非ス

第十條 頭巾ハ降雨雪霰ノキニ非サレハ外套ニ附著スヘカラス

第十一條 上衣ノホックヲ外シ又ハ外套ノ鈕ヲ外シ置ク等不體裁ノ容姿ヲナスヘカラス

第十二條 保存期限經過シタル官給品ハ凡テ着用スヘカラス

但保存期限經過シ尙ホ繼續シテ使用セント請フモノアルキハ特ニ許可スルコトアル可シ

第十三條 第五條第六條第七條第八條第九條第十條ハ押丁ニ適用セス

○長野縣訓令第五十五號

監獄署
監獄支署

監獄門守心得別紙之通定ム

但明治十九年^{三月}内記第二十六號監獄守門心得廢止ス

明治二十四年四月十日

長野縣知事 内海忠勝

監獄門守心得

第一條 表門ノ大扉ハ車馬物品運搬ノ場合ヲ除クノ外常ニ之ヲ閉鎖シ小扉ハ晝間之ヲ開キ夜間閉

鎖スヘシ

第二條 裏門ハ常ニ閉鎖シ署員通行ノ都度開閉スヘシ

第三條 來監者アルキハ能ク其氏名來由ヲ質問シ不都合ナシト認ムルニ於テハ鑑札ヲ交付シテ入

門セシメ出門ノキ其鑑札ヲ檢收スヘシ

但官吏公吏及縣會議員代人等ハ鑑札ヲ交付スルニ及ハス

第四條 商人等ニテ豫テ鑑札ヲ交付シ置クモノハ出入毎ニ其鑑札ヲ査閱スヘシ

第五條 物品ヲ携帶シテ入ルモノハ之ヲ取糺シ出ルモノハ出門證ヲ査閱スヘシ若シ無證又ハ不審

ト思料シタル場合ニハ看守長ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ

但物品出門證ニハ書記或ハ看守長ノ認印アルモノトス

第六條 第三條第四條第五條ニ據リ資問査閱等ノ場合ニ在テハ叮嚀親切ヲ主トスヘシ

第七條 高等官通行ノ際ハ詰所ヲ離レ書記看守長ニハ詰所内ニ於テ禮式ヲ爲スヘシ

第八條 監獄構内ニ事變アルキ又ハ事變アリト思料シタルキハ署員ヲ除クノ外都テ出入ヲ禁シ看

守長ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條 門守所ニハ帳簿ヲ製シ置キ第三條ニ於テ入門ヲ許シタルモノ、氏名來由等ヲ簡明ニ記載

シ日々看守長ノ檢閲ヲ受クヘシ

○長野縣訓令第七十號

監獄署
監獄支署

各監公廨及ヒ監房其他付屬建物等地方稅支辨ニ係ル修繕工事一廉金三圓未滿ノ修補ハ尋常非常ノ別ナク署限リ決行致スヘシ
但工事着手後五日以内其ヶ所及豫算金額ヲ報告シ費途ハ一ヶ月分取纏メ翌月五日限リ請求スヘシ

明治二十四年五月十二日

長野縣知事淺田德則代理

長野縣書記官小野田元熙

○長野縣訓令第七十七號

監獄署
監獄支署

明治十九年十一月達文第三十一號看守押丁點檢法別紙之通改正ス

明治二十四年六月三日

長野縣知事 淺田德則

看守押丁點檢法

- 第一條 看守押丁ヲノ姿勢動止ヲ一定ニシ紀律秩序ヲ嚴守セシムル爲メ交代前點檢ヲ行フ者トス
- 第二條 看守押丁ハ一定ノ時刻到レハ一定ノ場所ニ集合シ看守長ハ全員ヲ二列(九人以下)ニ整列セシメ左ノ順序ニヨリ點檢スル者トス
- 一 氣ヲ……………付ケ

此令ニテ速カニ且ツ一齊ニ兩手ヲ垂下シ姿勢ヲ整フヘシ

二 番號

此令ニテ前列右翼ノ者ハ頭ヲ左ニ廻シ一ト呼ヒ順次左翼ニ到ル

三 做ラ

此令ニテ右翼一人ヲ除ク外少シク左方ニ開キ相互ノ間一手ヲ入ル、ノ距離ヲ量リ頭ヲ右ノ側面ニ回シ右眼ニテハ右傍一人ノ胸部ノミヲ見ルヲ得ヘク左眼ニテハ全列線ヲ見得ヘキ者トス此際看守長ハ右翼ニ於テ全列ノ位置ヲ正スヘシ而シテ看守長ノ右翼ヨリ三步前面ニ來ル時一齊ニ頭ヲ正面ニ復ヘスシ

四前列三步……………(或ハ二步一步五步)進メ

此令ニテ前列ハ一整ニ進ミ姿勢ヲ整フ此際看守長ハ全列ノ姿勢及衣服帶釧頭髮靴等ヲ綿密ニ檢閱スヘシ

五 捕繩、收メ、呼子、收メ、手帳、収メ

此令ニテ右手ヲ以テ之ヲ出シ收メノ令ニテ元ニ復スヘシ

六 拔劍用意

此令ニテ右手ヲ劍柄ニ掛ケ其準備ヲ爲ヘシ

七 抜ケ、收メ

此令ニテ拔劍シ亦ヲ左方ニ向ケ前面ニ捧ケ收メノ令ニテ鞘ニ收メ兩手ヲ垂下スヘシ

八 後列詰メ……………進メ

此令ニテ前列ノ背部ニ進ム

九 右へ……向ケ、全隊後ロ……向ケ、左へ……向ケ、横行……左、進メ、横行右へ……進メ、後
 ロ……進メ、全隊……止レ、全隊三步〔五步二步〕前へ進メ
 此令ニテ回轉横行退歩等ヲ爲シ姿勢ヲ整頓スヘシ
 十 全隊……進メ、短メ足……進メ、並足……進メ、全隊止レ
 此令ニテ進行セシメ進行中ノ姿勢ヲ正クスヘシ
 十一 分レ……進メ

此令ニテ速カニ且一齊ニ後部へ回轉ヲ爲シ分ル、者トス

第三條 前條第六七及九十項ハ時宜ニ依リ之ヲ省略シ或ハ順序ヲ變換スルコトヲ得

第四條 看守押丁ハ全時ニ點檢スルヲ得ルト雖モ拔劍ノ場合ニ於テハ必ス格別ニスル者トス

○長野縣訓令第五十號

監獄署
監獄支署

看守病氣其他不參(願届)手續別冊之通相定ム

但明治十九年達文第三十五號ハ廢止ス

明治二十五年四月一日

長野縣知事 淺田徳則

看守病氣其他不參(願)手續

第一條 疾病ニ罹リ引籠療養セントスル者ハ出務時間前届出尙翌(夜)出勤スル能ハルモノハ醫師
 ノ診斷書ヲ添出務時間前更ニ届出ツヘシ

第二條 出務中疾病ニ罹リ引籠療養セントスル者ハ看守長ニ申出監獄醫ノ診察ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ申立アリタル者ハ看守長ハ監獄醫ヲシテ速カニ診察セシメ其診察ニ依テ許否スヘ
 シ

但翌(夜)尙出勤シ難キモノハ第一條末項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 病氣引籠中ハ五日目其長病ニ罹リ又ハ病院ニ治療スルモノ若クハ轉地療養中ノモノ七日
 目毎ニ診斷書ヲ添へ届出ツヘシ

第五條 病氣引籠中ハ外出スルヲ得ス但療養ノ爲メ散歩入浴又ハ轉地ヲ要スル場合ニハ其事由ヲ
 詳記シ醫師ノ診斷書ヲ添へ届出ツヘシ

第六條 父母病氣看護ノ爲メ歸省セントスルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添へ届出ツヘシ但急劇ノ場合
 ニシテ診斷書ヲ添ユル能ハサル者ハ願書ニ其理由ヲ認メ歸省ノ上送致スヘシ

歸省中自己ノ疾病ニ罹リ期限内歸任スル能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ届出ツヘシ

第七條 父母祭日又ハ親族ノ喪ニ丁リ不參スル者ハ其旨届出ツヘシ

第八條 前條ノ場合ニ於テ歸郷セントスル者ハ其日限ヲ記載シ願出ヘシ

第九條 官衙ノ召喚ニ依リ不參スル者ハ其理由ヲ詳記シ願出ツヘシ

第十條 此手續ハ女監取締及押丁ニモ適用ス

○長野縣訓令第七十八號

看守教習規程左之通相定ム

監獄署
監獄支署

明治二十五年六月九日

長野縣知事 淺田 徳則

看守教習規程

- 第一條 監獄署内ニ看守教習所ヲ設ク
- 第二條 看守教習ノ爲メ左ノ職員ヲ置ク
 - 一 教官二名 監獄書記看守長ノ中ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 助教一名 學力アリテ實務ニ練達スル上席看守ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 教習科目ハ職務ニ關スル法令及諸規則トス
- 第四條 新ニ採用セシ看守ハ二ヶ月間一般看守ハ順次交換法ヲ以テ適宜教習スルモノトス
- 第五條 教習時間ハ一時間乃至三時間トシ交代後或ハ勤務時間内繰合セ之ヲ行フ
- 第六條 實習ハ新ニ採用シタル看守ニ練習セシムモノニシテ教習標準ニ掲クルモノ、外當番看守長ノ指導ニ依リ實務ニ磨ラシム
- 第七條 新ニ採用セシ看守ハ教習期限ノ終リニ於テ修業成績ヲ試験ス

○長野縣訓令第百三十七號

監 獄 署
監 獄 支 署

訓授講習規定左之通相定ム

明治二十五年九月十七日

長野縣知事 淺田 徳則

第一條 看守押丁點檢ノ際看守長ハ左ノ項目ニ依リ訓授シ點檢訓授報告表ヲ製シ監獄署ハ毎月監

獄支署ハ一ヶ月纏トシ監獄署長ニ報告スヘシ

- 一 服裝及姿勢ニ關スル心得
- 一 禮式ニ關スル心得
- 一 帶劍ニ關スル心得
- 一 立番ニ關スル心得
- 一 巡警ニ關スル心得
- 一 門守ノ心得
- 一 交付時ノ心得
- 一 行狀視察ニ關スル心得
- 一 作業ノ督勵ニ關スル心得
- 一 非常變災時ノ心得
- 一 反獄逃走時ノ心得
- 一 教誨時ノ心得
- 一 常置器具工業器械ニ關スル心得
- 一 接見ニ關スル心得
- 一 護送中ノ心得
- 一 在監人疾病死亡時ノ心得
- 一 在監人ノ身體衣服等搜檢ニ關スル心得
- 一 監房ノ檢査ニ關スル心得

カノ部 監 獄

- 一 在監人ノ理髮入浴ニ關スル心得
 - 一 在監人ヘノ差入及給與品ニ關スル心得
 - 一 記牒方ノ心得
 - 一 外人ニ對スル注意事項
 - 一 監獄ニ關スル法律命令ノ大要
 - 一 當時監察セシ事項ニ付注意
- 第二條 署長ハ毎月三回以上監獄書記看守長監獄醫政誨師看守雇押丁ヲ召集前條項目及獄務ノ要義等ヲ訓授シ傍ラ獄務講習會ヲ組織シ學術實務ニ付講習討論セシムヘシ
但期日時間等ハ署長ニ於テ之ヲ定ム
- 第三條 講習會ハ署長會長トナリ署長事故アルトキハ上席監獄書記之ヲ代理ス
- 第四條 講習會々務整理議事摘録ノ爲メ幹事若干名ヲ置キ看守長及看守ヲ以テ之レニ當ツ但幹事ニ充ツヘキ看守ハ署長之ヲ命ス
- 第五條 講習問題ハ署長ヨリ下付シ又ハ會員ヨリ提出スヘシ會員提出ノ問題ハ署長ニ於テ取捨スルヲ得
- 第六條 討論ハ單簡明晰ヲ專トシ過言粗暴ノ舉動アルヘカラス且互ニ禮儀ヲ重シ發言セントスルトキハ起立會長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 監獄支署ニ於テハ議事摘録ヲ製シ問題及決議事項廢按撤回等理由ヲ記シ毎月一日十五日ノ兩度監獄署長ニ報告スヘシ
- 第八條 病氣其他正當ノ事故ニ依リ闕席スルモノハ開會十分前ニ届出スヘシ

看守押丁點檢訓授報告表

月 日	擔 當		點 檢		夜 勤		點 檢	
	看守人員	押丁人員	訓授事項	點檢事項	看守人員	押丁人員	訓授事項	點檢事項
一 日								
二 日								
三 日								
四 日								
五 日								
六 日								
七 日								

○長野縣訓令第百四十二號

監獄署

囚人ハ嚴峻ナル紀律ヲ恪守セシメ一舉一動號令ノ下ニ動止セシムヘキモノニ付左記概目ニ依リ動作順序ヲ施行スヘシ

明治二十五年九月二十九日

長野縣知事 淺田 德則

- 一 出監整列
- 一 點檢
- 一 衣體搜檢
- 一 着席
- 一 配食
- 一 喫飯
- 一 就役
- 一 行廁
- 一 進行
- 一 入浴
- 一 連鎖付着
- 一 連鎖解除
- 一 裝服

○長野縣訓令第百五十五號

監獄署

在監人行狀視察心得左ノ通相定ム

但明治十九年内記第三十七號ハ廢止ス

明治二十五年十一月十四日

長野縣知事 淺田 德則

在監人行狀視察心得

- 第一條 在監人ノ行狀ハ左記ノ事項ニ據リ視察スヘシ
 - 一 坐臥ノ正否
 - 一 言語及舉止ノ良否
 - 一 全囚ニ對スル行爲
 - 一 讀書ノ好否
 - 一 役業ノ勤惰及注意ノ精粗
 - 一 科程ノ了否
 - 一 償食費以上ノ工錢ヲ得ルヤ否
 - 一 工錢ノ貯否及費途
 - 一 反獄破獄及逃走ノ意思ナキヤ否
 - 一 所遇上ノ感情
 - 一 獄則及教令ヲ輕視スルモノナキヤ否

- 賞罰上ノ感情
- 表裏ノ言行ナキヤ否
- 口實ヲ藉テ課役ヲ免レントスルモノナキヤ否
- 他囚ヲ凌辱セントスルモノナキヤ否
- 素品ヲ濫用スルモノナキヤ否
- 貯水ヲ濫用スルモノナキヤ否
- 官物取扱方注意ノ良否
- 常置器具排置ノ整否
- 監房及工場掃除ノ良否
- 書籍其他ノ物品ヲ私ニ授受貸借スルモノナキヤ否
- 物品ヲ包藏シ或ハ許可ナキモノヲ監房ニ持込マントスルモノナキヤ否
- 他囚ヲ煽動セントスルモノナキヤ否
- 他囚ノ悪行ヲ幫助セントスルモノナキヤ否
- 己レノ勞ヲ厭ヒ他囚ヲ勞セシメントスルモノナキヤ否
- 放歌喧噪スルモノナキヤ否
- 濫リニ居席ヲ離レントスルモノナキヤ否
- 教誨ノ感否
- 工業ノ進否及長技
- 給與品及貸與品ニ對シ苦情ヲ唱フルモノナキヤ否

- 房外ニ於テ手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談スルモノナキヤ否
- 猥褻ノ所爲ヲナスモノナキヤ否
- 合衆スルモノナキヤ否
- 夜間談話發聲又ハ濫リニ起歩スルモノナキヤ否
- 高聲ニ讀書スルモノナキヤ否
- 隣房ニ通聲スルモノナキヤ否
- 裁判言渡ニ對シ苦情ヲ唱フルモノナキヤ否
- 書信發受者ノ其爲人
- 接見時ノ模様
- 親族ヲ思慕スルヤ否
- 出獄後住居ノ地
- 出獄後ノ目的
- 第二條 看守ニシテ視察シタル事項獄則ニ違反シタルモノト思料スルキハ直ニ當該者ヲ引致シテ看守長ニ申告スヘシ但押丁ハ所屬ノ看守ニ申告スルヲ要ス
- 第三條 擔當看守ハ第一號書式ノ視察日記ニ日々視察ノ事項ヲ簡明ニ記載シ退署ノ際看守長ニ提出スヘシ
- 第四條 夜勤及非擔當看守ハ日々視察ノ事項ヲ簡明ニ手帖ニ記載シ退署ノ際看守長ニ申告スヘシ但押送囚護送中ノ事項ハ到着ノ監獄署ニ詳報スヘシ
- 第五條 看守長ハ擔當看守ヨリ提出シタル視察日記夜勤其他ノ看守ヨリ申告セシ事項及ヒ自ラ視